宗方小太郎日記，大正 7〜8 年

大 里 浩 秋

1. はじめに

本所報 No. 37 に宗方小太郎の明治 21 年の日記（但し中国滞在時期のもののみ）を載せ，No. 40 に 22〜25 年，No. 41 に 26〜29 年（但し 27 年 6 月 27 日から 12 月末までと，28 年 3 月 23 日から 8 月末までを除く），No. 44 に 30〜31 年，No. 46 に 32〜33 年，No. 47 に 34〜35 年，No. 48 に 36〜38 年，No. 49 に 39〜40 年，No. 50 に 41〜42 年，No. 52 に 43〜44 年（但し 43 年の欧米旅行時期を除く），No. 54 に 43（途中で大正元年となる）〜大正 2 年，No. 55 に 3〜4 年，No. 56 に 5〜6 年の日記を載せた。今号ではその続きとして，大正 7〜8 年の宗方の手書きの日記を活字に起こすとともに，解題を付すことにする。

前回までと同じであるが，お断りすべきことを記す。原文のカタカナは，西洋の固有名詞や外来語の表記を除いてひらがなに改め，漢字の旧字体は新字体に改め，適宜句読点を加えたが，日本人の名前の漢字は原文のままにした。私が付す解題中での原文の扱いも同様である。また，解読し難い文字は□で示した。日記の解読と入力作業は，本学中国言語文化修士修了，文学修士の増子直美さんに手伝ってもらった。

2. 大正 7 年 1 月から 12 月までの日記

大正 7（1918）年の日記は，前年 1 年分とともに一綴じとなっている 7 月末までの分と，翌翌年（大正 9 年）8 月末までの日記と一緒に綴じている 8 月以降の分からなっている。

前年 12 月 19 日に日本から上海に戻って以来，4 月初めまでは上海で過ごしている。上海での宗方は，足繁く鳥撃に出かけ弓術の稽古に通うのが慣例になっていて，早くも 1 月 2 日には杭州に鳥撃に出かけており，前年までと比べて回数は減ったものの弓術の稽古にも通っている。

正月明けからしきりに会っているのは神州日報主筆の余洵であるが，それはこの新聞を買収する動きと関係しているようであり，買収費 2 千元は三井の藤村義朗から出ており（正月 16 日の日記），譲渡の契約は社主の銭芥塵との間で 2 月 1 日に調印している。なお，大正 10 年 1 月付けで宗方が社長を務める東方通信社が出した「上海外支新聞一覧」（『宗方小太郎文書』，原書房，昭和 50 年，所収）によると，神州日報は「初め革命派の機関なりしも，爾来幾多の変遷あり。大正七年以来現社長余洵の経営に移ると共に，内容体裁を充実改良し，帝国に対しては頗る好意を表しつゝあり」とのこと。

1 月から 3 月にかけての日記には，「波多，平川来訪，今夜南京に赴き馮国璋の動静を視察すと云ふ」（正月 29 日），「鄭垂来訪，本日広西陸栄廷の処より帰来せりと云ふ」（2 月 4 日）と書き，2 月 18 日には，八角，白木両武官と姚文藻，鄭孝胥を訪ねたり，同日白木とともに孫洪伊らの宴会に参加したこと

が書かれ，さらに3月23日には段祺瑞が再び総理になって内閣を組織したことを記している。これらの内容は簡単に過ぎるが，この時期，前年から続く軍閥間，とりわけ安徽派と直隷派の対立，段祺瑞内閣と民党の対立，そして中央・地方の各派閥の動きを追って，繰り返し中国の政治の現状を把握しようと努めていることが，下にまとめた海軍あての報告のタイトルからも窺うことができる。このうち，2月4日の日記にある鄭垂の来訪について記した報告第488号「陸栄廷の真意」のみに触れるならば，次のようである。「陸栄廷の顧問鄭譲于なる者…陸氏が時局に対する真意の在る所を開陳し，切に我政府の援助を乞へり。…陸栄廷の本志は宣統復辟に在る…」

また，この時期上海で交流があった日本人の一人に朝日新聞特派員（戦後全日空社長・朝日新聞社社長を歴任）の美土路昌一がいる。彼は同僚大西齋の後任として2月初めに着任して以来，10月に帰国するまで大西と同様繰り返し宗方と会っている。

4月初めに帰国したのは，おそらくは一人娘清子と前年秋に養子として迎え入れた丈夫との結婚式を行うのが主な理由であろう。4月27日，海軍関係者や上海での知り合いを含む65人が出席して式が執り行われたとする。また，詳細は不明ながら，5月4日に「賞勲届より勲記を送り来る」とある。

5月25日に上海に戻った後，6月初めから中国の政治状況を海軍あてに報告する作業を再開している。中国の広範囲な情報を集めて分析するのは骨の折れる作業であり，とても宗方一人で処理できることではないとは以前から感じていたことであり，新聞情報を拾うだけでなく，中国各地に情報提供者がおり，彼らの情報も頼りにして報告を執筆しており，そうした情報提供者としては，例えば5月から7月，11月の日記に登場する八田厚志や平野健も該当するのではないかと推量した次第である。二人とも何らかの報告を宗方に提出しており，宗方は平野にその謝礼を払っているようであって，彼らから得た報告内容を織り込み，あるいはそのままを海軍への報告に使っていることもあるのではないかと思ったのだが，どうであろうか。

8月と10月には，鄭孝胥と会っている。そのうち10月の場合は，鄭垂が宗方を訪ねてきて，その後に鄭孝胥のところに行っているので，そうとは書いていないが，鄭垂を伴って行き復辟に関わる話をした可能性がある。11月11日には，連合国とドイツとの休戦条約が結ばれたことを伝え，21日から3日間「聯合国居留民の戦争祝賀会の催有り，全市雑踏如湧」で，21日には学生の旗行列があり，23日には「炬火行列」があったとする。日本人に関係したこととしては，7月28日西本願寺で山田良政の「追弔会」があって，参列している。山田は明治33（1900）年に孫文が指導する恵州蜂起に参加したまま生死が不明だったが，この年（1918年）に彼を処刑した人物が孫文に打ち明けたことで清国軍に捕まり処刑されていたことが判明して，弟純三郎も参加して追悼会を開くことになったと思われる。また，11月に衆議院議員で後に電力王と称された松永安左衛門が上海に来た際2度顔を合わせている。

ところで，12月19日に養子の丈夫が急性肺炎にかかり重態との知らせが届き，急きょ帰国して連日病院に見舞いに通っている。丈夫は12月1日に海軍に入営しており，ほどなく肺炎にかかったことから衛戍病院に入院しているが，徐々に回復して安堵した状況で東京で新年を迎えることになった。

ここで，この年に宗方が書いた海軍あての報告の号数・タイトルと日付を，『宗方小太郎文書』（以下『文書』と略称）のそれと対照しつつ日記から拾い出す。

1月8日，第486号「支那時局観」（『文書』の日付は1月5日）。1月22日，第487号「支那南北の形勢概観」（『文書』の日付は1月21日）。2月4日，第488号「陸栄廷の真意」。2月21日，第489号「安徽の険象」。3月14日，第490号「南北対峙の形勢概要」（『文書』の日付は3月11日）。3月19日，第491号「時局概観」（『文書』の日付は3月18日）。4月1日，第492号「支那時局概観」，上海社会科学院歴史研究所所蔵（以下「上海」と略称），日付は3月30日。6月3日，第493号「過去二か月間の政況（概要）」（『文書』の日付は6月2日）。6月13日，第494号「支那政局概観」。6月22日，

第 495 号「北洋系の内訌と西南討伐難」。6 月 26 日，第 496 号「広東討伐」。7 月 9 日，第 497 号「広東討伐と西南の結束」。8 月 2 日，第 498 号「天津会議と総統選挙の影響」。8 月 18 日，第 499 号「天津会議散後の形勢」。8 月 23 日，第 500 号「呉佩孚の要電」(『文書』の日付は 8 月 21 日)。8 月 30 日，第 501 号「政局の紛糾と復辟の謡言」，上海，日付は 8 月 29 日。9 月 18 日，第 502 号「総統改選と時局の関係」，上海，日付は 9 月 16 日。10 月 5 日，「報告二通を発し」とあるのは，『文書』にある 9 月 30 日付け第 503 号「奉天軍南下と南京の戒厳，南北両軍将領の会電」と，10 月 2 日付け「段祺瑞の進退と時局の関係」を指していると思われる。10 月 23 日，第 505 号「和戦両派勢力の消長」(『文書』の日付は 10 月 18 日)。11 月 5 日，第 506 号「平和運動と南北妥協の前途」(『文書』の日付は 11 月 2 日)。11 月 12 日，第 507 号「南北妥協の難関」，上海，日付は 11 月 11 日。12 月 16 日，第 508 号「南北妥協の趨勢」(『文書』の日付は 12 月 15 日)。

正月元日　晴。早起盥嗽。東方を拝し屠蘇，雑煮を用ひ，馬車を賃して徐家滙同文書院に至り根津，大島，森，友野に年禧を賀し，有吉領事を西摩路の寓に訪ひ，十時半領事館の年賀式に臨み，山内恕，村井，櫻木と軍艦千代田に司令官山岡豐一少将，八角参謀，艦長を訪ひ小談，辞帰。正午倶楽部の名刺交換会に出席。帰途篠嵜に小談，帰寓。賀正の客接踵して至る。内外知人の年賀状数十通に接す。明朝七時半の汽車にて杭州に猟せんとす。猟装を治して夜更に至る。

正月二日　晴天。六時起床，結束，七時十分車站に至，和田正世に会し杭州行の汽車に上る。車中中食，午後一時艮山門着。茶館に行李を卸し，結束して下菩薩附近を猟す。雉子一，山鷸一を獲，四時帰る。神嵜，和田，外一人亦帰来。夜神嵜の船に至り会食。八時半和田と茶館に帰り寝に就く。

正月三日　快晴。前七時半和田と潮王廟一帯に鷸一，鳧一を獲，正午帰る。午後神嵜，外一人来会。午後二時半の汽車にて杭州を発す。七時上海着。知人の年賀状百余通に接す。

正月四日　快晴。年賀状を発す。午前余洵来訪。午後杉谷善蔵，佐々布，山口一誠，八田厚志来訪。

正月五日　晴。午後八田，杉谷，並に長崎出身同文書院学生椎木真一，村川善美，吉田三男治，及び満州日々新聞社理事田原禎次郎来訪。四時神州日報余洵来談。五時より八田の寓に至り杭州にての猟獲物を会食す。島田，大西来会。平岡小太郎来訪。

正月六日　快晴。日曜日。前十時十分の汽車にて平岡，佐々布と呉淞に猟す。鴨二羽を獲，七時帰。大島新，森茂来訪せりと云ふ。内人の信，並に各地の年賀状に接す。

正月七日　快晴。午前根津，姚，西山，杉谷来訪。風邪の気味有り終日静養。

正月八日　快晴。午前八角中佐，白木少佐，余洵来訪。午後八田，菊池虎蔵来訪。海軍に報告を発し，副本を軍艦千代田に送る。内人の信，並に多数の年賀状に接す。

正月九日　晴。午前平岡，亜洲報館，藤村を訪ふ。午後余洵来訪。夜副島，神嵜来訪。内人に復書す。

正月十日　晴。午前波多新夫婦を迎へ，帰途岸倉松，山田謙吉を訪ひ帰る。清子の信至る。午後波多，大西，井手友，余洵来訪。夜篠嵜の饗宴に其寓に赴く。若杉要，井手友，平川，西本，坂田長平同座たり。九時散ず。

正月十一日　陰。住友銀行笠原正吉，松村松治郎の詩帖に接す。之に復す。午後陸軍大尉磯谷廉介，余洵来訪。夜佐々布，平川，平岡を訪，十時帰。

正月十二日　晴。理髪。有吉，波多を訪ふ。午後波多夫婦，余洵来訪。

正月十三日　晴。朝五時起床，六時十八分の汽車にて平岡と宝山に猟す。無所獲，正午帰。夜第七戦隊司令官山岡少将以下の歓迎会に倶楽部に出席，九時帰。

正月十四日　晴。午前八角中佐，白木少佐来訪。藤村を三井に訪ひ，神州日報買収の事を商量す。午後有吉，林出，井手，八角を訪ふ。余洵来訪。

正月十五日　晴。正午根津院長の帰国を近江丸に送る。東京竹下中将宅より菓子を送り来る。礼状を発

す。午後波多，西本と軍艦千代田を訪ふ。八角と小談，辞帰。豊陽館に橘三郎を訪ひ，去て篠嵜医院に山田謙吉の病を見て帰る。堀扶桑死去，奠儀五元を送る。

正月十六日　晴。午前藤村を三井に訪ひ，神州日報買収費に二千元を受取て帰る。午後波多野養作来訪。三時半余洵来る。藤村より受取りし銀二千元を交付す。橘三郎来訪。六時住友銀行笠原正吉，松村松治郎の招宴に六三亭に赴き，十時帰る。

正月十七日　半晴。海軍に書信を発す。中食後原田官補の帰国を滙山碼頭の八幡丸に送る。東京宅に致書す。白木を訪ひ帰る。三時大島新，余洵来訪。大島を留て晩食を共にす。佐々布，波多来訪。奥繁三郎の信至る。是日飼犬走失。

正月十八日　晴。午前有吉，藤村を訪ひ，神州日報買収の事を商量す。六時波多と報界公会の請宴に三馬路小有天に赴く。申報，新聞報，時報，神州，中華，亜洲，時事等の記者皆至る。主客二十余人。九時散。

正月十九日　晴。午後有吉，藤村を倶楽部に訪ひ，去て秋田に受診。山田謙吉の病を訪ひ帰る。同文書院生久保田正三，並に佐々布来訪。中島為喜の信至。

正月二十日　晴。日曜。終日在寓，報告を作る。飯塚卯三郎来訪。

正月二十一日　晴。午前藤村を訪ふ，在らず。平岡に抵り小談。去て八田を訪ひ帰る。余洵来訪。午後理髪。帰途波多を訪ふ。平岡等鎮江にて猪四頭を獲たりと云ふ。八角中佐，余洵来訪。千代田艦は明朝出港，南京に赴くと云ふ。速水一孔，迎英輔の信至。夜波多を訪ふ。大西と三人閑話，九時帰。

正月二十二日　晴。午前藤村を三井に訪ふ。病の為に出勤せず。神嵜と小談，帰る。波多，余来訪。南京八角中佐，中川外雄に致書す。海軍に報告を発す。午後神嵜，余洵と神州報の事を商量す。夜大西齋の送別会に倶楽部に出席。九時半散。

正月二十三日　晴。午前余洵，神嵜来訪。山屋軍令部次長，田原禎次郎，杉谷善蔵，谷口源吾の信至る。午後六時平岡宅に至り其猟獲の猪を会食す。来会者主人平岡，水谷，武田以外，笠原，神嵜，幡生，速水以下十六人。十時半散。

正月二十四日　晴。内人に致書す。鳥居赫雄，中島為喜に致書す。午後五時半共同通信社の招宴に倶楽部に赴く。両国の新聞関係者二十五六人来会。十時半散ず。

正月二十五日　陰。午後武田寛次郎，並に海軍中佐園田繁喜来訪。園田は新嘉坡より帰任の途に在る者也。迎英輔，谷口源吾，速水一孔に復書す。

正月二十六日　半晴。松倉，門野九郎，内田友義の信至る。午前山田謙吉来訪。午後岸倉忞を訪ふ。余洵来訪。夜神崎，佐々布，平岡，三田を訪ひ，九時帰。栃内海軍次官，門野重九郎に致書す。丈夫の信至。

正月二十七日　快晴。日曜。朝浦六郎来訪。前十時平岡，武田，水谷，佐々布と宝山に猟す。無所獲，二時四十分の汽車にて帰。余洵来訪。夜波多，姚来談。森山少将の信至る。

正月二十八日　晴。午前副島，午後西本，余洵来訪。三時神嵜，平岡を訪ふ。晩神嵜，余洵来訪。夜波多，平川来訪，今夜南京に赴き馮国璋の動静を視察すと云ふ。

正月二十九日　晴。午後余洵，波多，大西来訪。神嵜を訪ひ小談，帰。大島新よりからすみ一箱を贈り来る。

正月三十日　快晴。田中少将に致書。午前山田謙吉来訪。午後神嵜，余洵来訪。

正月三十一日　晴。中川外雄の信至る。平川，神嵜，余洵来訪。八角中佐に致書す。

二月一日　晴。午前余洵来訪。午後弓術を修む。三時半三井に至り神嵜，余洵と会し，四時三人同車派克路銭芥塵の寓に至り，其病床に就き神州日報譲渡の契約に調印す。終て独り姚文藻に抵り小談，帰。井手三郎の信至。

二月二日　晴。午前上海日報に至り小談。去て豊陽館に奥繁三郎を訪ひ立談。弓術倶楽部に至り射を試

み，領事館に有吉，岸と談じ，帰途篠嵜，波多を訪ひ，正午帰る。松倉善家，中川外雄，杉谷善蔵，海軍の信，並に奥繁三郎列よりの案内状に接す。中川に復書す。東京朝日社員美土路昌一来訪。大西齋の後任として来れる者なり。午後大西来訪。晩波多，佐々布来談。七時半平岡を訪ふ。佐々布来会，共に出て神嵜を訪，南京行の相談を為し，十一時帰。

二月三日　陰天。日曜日。午後弓術を修む。西本来訪。

二月四日　陰。鳥居，角田隆朗，原田萬治，浅井正夫，並に内人の信至る。内人に復書す。鄭垂来訪。本日広西陸栄廷の処より帰来せりと云ふ。領事館より正月分手当を送り来る。海軍に報告を発す。姚文藻の信至る。晩佐々布来訪。九時佐々布と出て通信社に至り小談。十時近江丸に至り，書信を投函して帰る。微雨。

二月五日　積陰。午前西山，飯塚卯三郎，八田来訪。東京宅に致書，金二百円を送る。夜姚文藻，余洵，波多来訪。雨。

二月六日　雨。午前山田謙吉，井手友，西山来訪。南京八角参謀に致書，報告の副本を送る。午後理髪。藤村を三井に訪ふ。六時支那新聞記者団の招宴に小有天に赴き，九時半帰。

二月七日　陰。午前波多来訪。森茂に致書，其三男を唁す。大坂奈倉善家に復書。八角，佐原に致書。午後波多来訪。共に出て鄭孝胥父子を南陽路に訪ひ，四時帰。六時取引所創立披露の宴に倶楽部に出席す。奥繁三郎，藤野亀之助，宮嵜敬介，山本條太郎等主人たり。来賓百二十余人。十時散ず。帰途波多の処に小談。雨。

二月八日　陰，夜雨。午後三井より豊陽館に至り白木を訪ふ。夜佐々布来訪。栃内海軍次官，乙竹茂郎の信至る。夜呂復，陳策，温世霖，王正廷，趙世玉等より一枝香に招宴，辞して行かず。

二月九日　雨。是日より神嵜，佐々布等と南京に出猟せんとす。午前猟装を治す。零時五十分の汽車に乗ず。午後七時半南京下関着。城内鉄道に換坐し，九時半宝来館に着す。入浴後夜食，十一時半就寝。

二月十日　晴。前八時平岡小太郎，水谷誠蔵来着。朝食後一行五人に支那人四名を伴ひ馬車に南門に至り，驢馬十余頭を雇ひ騎して発す。午後二時半殷巷鎮着，清水亭の大廟に宿所を定め行李を卸し，直に出猟。雉子一羽を獲，五時帰。夜同人と牛肉を会食，九時就寝。

二月十一日　快晴。是日紀元節にして陰暦正月元旦に当る。詰朝猟装寺門を出で遥に東天を拝す。方山の一角旭日極好。諸人方面を分て猟区に入る。牛首山の方位に向て進み，雉子一羽，鴨五羽，鶉一を獲，五時宿舎に帰る。夜に入て会食，九時就寝。

二月十二日　半晴。是日南京に帰らんとす。詰朝行李を整頓す。九時驢に騎して発す。是より南京に至る三十支里。午後一時通済門を入り宝来館に着す。吉井某我一行に会するが為め上海よりして来るに遭ふ。平岡，水谷は下蜀附近に猪狩の目的を以て去て下関に赴く。神嵜，佐々布と共に留宿。

二月十三日　微雪。午前五時起床。六時前馬車旅館を出で下関に向ひ，七時二十分の汽車に乗ず。吉井亦来会。車中にて朝食。正午蘇州を過ぐ。車中中食。午後二時半上海着。一行と別れ帰る。鳥居，奈倉の信片，中川，速水，牛島吉，野尻孝，森茂，丈夫の信に接す。波多，大西，美土呂来訪。

二月十四日　朝微雨，午前晴。午後大島新，余穀民，松浦冠山来訪。波多，白木，八田に南京にての猟獲物を分贈す。夜中川外雄南京より来着，漢代の瓦硯一面を贈る。

二月十五日　晴。牛島吉郎に復書す。午前井手友来訪。午後豊陽館に白木を訪ひ，一時半軍艦千代田に山岡司令官を訪ひ暢談，三時の汽艇にて帰る。六時安河内の送別会に倶楽部に出席。散後楼上にて気合術を観，十時帰。雨。

二月十六日　半晴。午前大河平隆則の病を問ひ，去て白木，安河内を訪ひ，領事館に有吉と談じ，帰途波多に小談，去て四川路に大西齋を訪ひ別を叙す。明日安河内，大河平等と同船帰国するを以てなり。午後立川医院に至り種痘，新利洋行を訪て帰る。孫洪伊，馬君武，徐譲，居正，丁仁傑等の案内状至る。晩大西，美土呂を招き会食す。

二月十七日　晴。日曜日。午前七時五五分の汽車蘇州に至り，虎丘の附近に猟す。無所獲，午後八時帰る。内人の信，並に河口介男の信至。安河内，余穀民，中川外雄来訪せりと云ふ。

二月十八日　快晴。午後八角，白木両武官と姚文藻，鄭孝胥を訪ふ。六時半白木と同車戈登路七号孫洪伊等の招宴に赴く。主客三十余人。十時散。田中少将の信至。

二月十九日　快晴。前七時山岡司令官，八角参謀を訪ひ別を叙す。軍艦嵯峨にて本日遡江漢口に赴くを以てなり。佐々布来訪。内人と丈夫に復書す。晌午大島新来訪。河口介男に復す。姚文藻，鄭孝胥父子来訪。田中清司に致書，谷口源吾の事を交渉す。西本来訪。夜島田来訪。

二月二十日　快晴。午前理髪。飯塚卯三，松井石根来訪。午後阿部政次郎来訪。夜余洵，神嵜，佐々布来訪。報告を作て夜更に至る。

二月二十一日　晴。午前波多を訪ふ。海軍に報告を発し，別に九州日々社に通信す。狄楚青来訪。午後森永卯八郎来訪。八田来訪。漢口八角参謀に致書，報告写を送る。北京伊集院大佐に致書す。波多来訪。夜白木，篠嵜を訪ひ，十時帰。

二月二十二日　晴。午前林出，平岡を訪ふ。狄平に致書す。夜美土呂来訪。

二月二十三日　快晴。午前狄平来訪。東則正に致書す。夜波多来訪。本渓湖脇坂岳虎の信至。

二月二十四日　快晴。日曜。前八時白木少佐，平岡，佐々布，水雷艇朝日丸にて呉淞沖の崇宝沙に上陸し鴨猟を為す。無所獲，三時帰。奈倉善家の信至。

二月二十五日　快晴，暖気頓に催す。午前弓術を修む。内田友義東京よりの信至る。是日歙州硯一方を購ふ。西本来訪。午後青木喬来談。清子に飼犬（ベル）の写真を送る。

二月二十六日　陰。午前弓術を修め，帰途西本，波多を訪ふ。午後北郊に猟す。無所獲。夜波多来訪。

二月二十七日　陰。海軍田中少将に致書。午前松井中佐，姚文藻を訪ふ。午後波多を訪ひ，去て弓術を修む。外務の手当を領事館より受取る。佃信夫，谷口源吾，丈夫の信，並に高柳敬勇の案内状至。波多，立原杏樵，石井則之前後来訪。雨。

二月二十八日　陰。田中少将，菊池隅田艦長，佃信夫，内田友義，脇坂岳虎，大島新，宗方丈夫に致書す。午前弓術を修。岡幸七郎の信至。西山，井手友来訪。夜佐々布，波多来訪。

三月一日　微雪。午前弓術を修め，帰途波多を訪ふ。午後水野梅暁来訪，本日来着せりと云ふ。西田敬止，岡幸七郎に致書。櫻木俊一，山田謙吉来訪。夜佐々布を訪ふ。

三月二日　半晴。田中清司，奈倉善家の信至。午前飯塚，池田旭来訪。篠嵜厳君の死去を聞き留守宅に至り弔す。理髪後井手友に抵り小談。弓術を修て帰る。午後水野梅暁，池田旭を訪ふ。両人香港，新嘉坡に赴く者也。余洵来訪。六時高柳敬勇の招宴に六三園に赴き，十一時半帰る。姚文藻来訪せりと云ふ。小早川秀雄の信至。

三月三日　陰。篠嵜に奠儀五元を郵送す。谷口源吾に致書。正午より井手友喜と同車同文書院に至り弓術部の開場式に列す。六時終る。茶菓の饗を受，七時帰。雨。

三月四日　雨。内人，吉川深太郎の信，並に新嘉坡竹下中将勇の信至る。東京井手三郎，丈夫の信至。石井則之来訪。波多来訪。

三月五日　積陰。東京留守宅，並に荒賀，井手に致書す。荒賀に熊谷直幹満洲行の旅費分担額十元を送る。午前郵便局，上海日報，弓術倶楽部，波多を訪ひ帰。午後雨。

三月六日　雨。午前弓術を修む。伊集院俊の信至る。午後新橋栄次郎来訪，本日到着せりと云ふ。夜櫻木来談。姚文藻を訪ふ。

三月七日　雨。午前弓術を修め，佐原，波多を訪ふ。正午波多と上海日々社宮地貫道の処に至り汁子を会食す。白木少佐，並に居留地警官某来会。二時散。杭州瀬上恕治の信至り，新橋来訪。

三月八日　雨。午前新橋，甲斐靖来訪。瀬上に復書す。午後二時練習艦千歳を訪問し，帰途甲斐を万歳館に訪ひ，去て弓術倶楽部に至り，四時帰。森茂，波多，高柳敬勇来訪。

三月九日　雨。午前弓術を修む。午後八田，新橋来訪。千歳艦長白根熊三大佐来訪。

三月十日　晴。前五時半起床。九時白木少佐と軍艦千歳に至り，候補生並に士官一同に対し約二時〔間〕の講話を為し，終て白根艦長の処にて千代田艦長，白木少佐と午餐の饗を受け，一時半帰。倶楽部に至り弓術を修む。大西齋の信至る。七時義勇隊の賞品授与式に倶楽部に列席。九時千歳艦長の招宴に月廼家花園に赴く。千代田艦長以下数人同坐たり。十時半帰。

三月十一日　快晴。谷口源吾に致書。午前弓術を修め，波多を訪て帰る。山田純三郎，山田謙吉，吉田親一，有働政喜前後来訪。漢口八角中佐の信至る。晩軍艦千歳の将校招待会に倶楽部に出席。九時散。

三月十二日　陰。正午千歳乗組候補生招待会に倶楽部に出席。二時半散ず。去て弓術を修め，豊陽館に千歳艦長白根大佐を訪ひ別を叙して帰る。千歳明朝出港するを以てなり。八田，美土路，余洵，新橋前後来訪。

三月十三日　陰。午前山田謙吉，姚文藻来訪。午後平岡，西本来訪。三時波多を訪ひ，去て弓術を修む。大西齋に復書す。波多来訪。

三月十四日　晴。海軍に報告を発す。出て弓術を修む。午後朝鮮銀行橋本萬之介，夜佐々布来訪。

三月十五日　晴。漢口八角中佐に報告写を送る。東京郡島忠次郎に致書す。午前三井に神嵜，守田，河合を訪ひ，帰途弓術を修む。夜波多来訪。

三月十六日　晴。午前弓術を修む。午後有働政喜の帰国を送り，吉田親一を常磐に訪ひ帰る。漢口岡幸七郎に致書。中川外雄の信片至。内人，河口虎夫，荒賀直順の信至る。

三月十七日　快晴。日曜。前八時車站に至り神津，平岡に会し，崑山会猟を辞す。内人に復書す。午後東和洋行の葬式に列す。夜波多を訪ふ。

三月十八日　晴。午前平岡を訪ひ，去て弓術を修む。午後青木，山田謙，浦六郎来訪。亀雄の信至る。夜美土路来訪。

三月十九日　晴，暖気如晩春。午前波多を訪ひ，去て弓術を修む。午後波多来訪。軍令部に報告を発し，別に田中少将に致書，帰国の事を報ず。星嘉坡竹下中将，東京安河内弘，弟亀雄に復書す。水野梅暁来訪。漢口八角中佐に報告写を送る。大坂毎日社波多野乾一より其著支那政党史稿一冊を送り来る。之に礼状を発す。松倉，河口虎夫に復書す。

三月二十日　微雨。佃信夫の信至。午前有吉，岸，白木を訪ひ，帰途弓術を修む。午後西山，水野，新橋来訪。姚文藻を訪ふ。

三月二十一日　晴。佃信夫に復書す。午前万歳館に朝鮮銀行橋本萬之助，並に美土路昌一を訪ひ，去て弓術を修め，上海日報に島田を，通信社に波多を訪，正午帰。青木喬の信至。佐々布来訪，留て晩食す。秋吉開教師来談。

三月二十二日　晴。理髪。午後弓術を修む。午後八田，西本を訪ふ。夜姚文藻，石井則之，波多博来訪。軍令部に書信を発す。

三月二十三日　風雨。午後波多，新橋来訪。新橋は本日香港に赴くと云ふ。大坂相良忠道の信至る。是日段祺瑞再出為総理組織内閣。

三月二十四日　晴。日曜。中食後猟装佐々布に抵り之を誘ふ。先約有るを以て行かず。独り江湾附近に猟し鴫二羽を獲，四時帰。井手三郎の信至。

三月二十五日　晴。午前弓術を修め，波多を訪ふ。午後中野公長，山田謙吉来訪。夜河合半次郎来訪。

三月二十六日　晴。午前弓術を修む。午後大島新来訪。谷口源吾の信至る。之に復す。美土路，平川，並に台湾総督府事務官池田幸甚来訪。郵船会社伊吹山より龍華観桃の案内至る。篠嵜来訪。

三月二十七日　陰。午前池田幸甚を訪ひ，去て弓術を修む。午後櫻木を訪ふ。河口介男，同虎夫の信至。

三月二十八日　陰。午前波多の病を問ひ，去て弓術を修む。午後八田，西山来訪。領事館より三月分手当を受取。井手三郎，河口介男，相良忠道，伊集院俊に復書す。余洵，石井来訪。大島に致書。藤村

より園遊会の案内状至。夜雨。姚文藻来訪。

三月二十九日　積陰。森茂来訪，本日大連に赴くと云ふ。午前白木を訪ひ，弓術を修て帰る。谷口源吾に致書す。午後林出賢二郎，藤村義朗，守田一郎来訪。藤村は明日の船にて一時帰国すと云ふ。夜波多の病を問ふ。

三月三十日　半晴。午前理髪。有吉，岸，伊藤，若杉を領事館に訪ひ告別。井手，藤村を歴訪し，帰途弓術を修む。軍令部副官の電報至る。之に復電す。漢口に在る第七戦隊司令官山岡少将より我家の子女結婚の祝儀として金百円を贈らる。大島新来訪。内人，岡幸七郎，浦六郎の信至。内人に復書す。谷口源吾に致すの信を作り石井則之に托し，本人着滬の時交付せしむ。夜歯痛。

三月三十一日　陰。朝八田，西山来訪。前十時半より郵船会社の観桃会に赴く。郵船埠頭より上船，龍華鎮に至る。船中にて会食し，一時上陸。桃樹の花を着くるもの十の一，二に過ぎず。頗る可惜也。桃林の間を徜徉し龍華車站に至り薜徳樹と邂逅。二時汽車南站に至り電車にて帰る。荻野歯科医に抵る，在らず。晩佐々布，波多夫人来訪。波多より清子に贈品有り。歯痛激甚，極て苦痛を覚ふ。九時就寝。

四月一日　晴。山岡少将に礼状を発し，別に八角参謀に報告写を送る。海軍に報告を発す。島田来訪。午後野嵜季男，白木少佐，八田来訪。谷口源吾の信至る。波多，財津，白木を訪ひ告別す。

四月二日　快晴。西本，副島来訪。是日帰国の程に上らんとす。行李を収拾す。午後一時春日丸に上る。白木，林出，井手友，島田，友野，波多夫人，八田，平岡，河合，佐々布，山田，美土路，平川，櫻木，薜，不破，西山，篠嵜，西本，山口，辻等来送。二時出港。

四月三日　快晴。海上平穏。朝五野船長と談ず。熊本済々黌出身なり。夜浅井機関長と猟話を為し，十時就寝。

四月四日　快晴。前六時半長崎に入り鼠島に仮泊。検疫終て八時半上陸。桜花満開，緑樹の間に粧点し，清趣可掬。土佐屋に投ず。空室無きを以て直に車站に至り十一時二十分の急行を待て之に乗ず。東京宅に電報を発す。大谷高寛の熊本に帰るに邂逅す。線路の両側桃桜盛開，菜黄麦緑，春色如海。三時鳥栖を過ぎ，六時門司着。直に下関に渡り，七時二十分の特急に乗ず。客多くして寝台を得ず。終夜不得安眠。

四月五日　快晴。詰朝明石，須磨を過ぐ。淡島春靄に籠りて見へず。八時半大坂を過ぐ。鳥居，狩野，並に漢口八角中佐に致書。米原に中食し，静岡を過ぐ。一路桃林相属，花光映帯，美観不可名状，龍華桃園の盛も及ぶ能はず。夜八時半東京着。丈夫，清子，田中，内田来迎。電車麻布の寓に帰る。内人病臥。

四月六日　晴，風塵不可向邇。午前虎門西田宅を訪ひ，去て海軍々令部に田中，森山両少将，山屋中将，坂本副官，並に中島晋，大中，井手等に面し，正午帰寓。

四月七日　微雨。午前井手三郎，西田敬止来訪。午後井野春韶，神尾茂，津田静枝前後来訪。佃信夫，渋谷作助に帰京を報ず。

四月八日　陰。午前外務省に小幡政務局長を訪ふ。渋谷作助来会。同文会に至り山内嵜，小越平陸と談じ，中食後帰る。上海波多博に致書す。内田友義，亀雄来訪。

四月九日　陰。午前佃信夫，安河内弘前後来訪。午後内田友義を訪ふ，在らず。芝公園に至り桜花を賞して帰る。井手三郎の信至る。之に復す。宮島大八に信片を発す。

四月十日　雨。午前車を賃して上大崎に小橋一太宅を訪ひ夫人に面し，子女結婚の事を商量し，帰途藤瀬政次郎夫妻を白金今里町に訪ひ其三男の死を弔して帰る。第十一回世界一周会懇親会の案内状至る。井手三郎の請帖至る。之に復す。

四月十一日　雨。朝理髪，公園の桜を観て帰る。中島中佐晋来訪。午後亀雄来訪。

四月十二日　陰。午前渋谷作助来訪。午後佐々家を訪ひ，去て守田愿の病を慰問し，帰途白岩，西田を

訪ふ。晡時神尾茂来訪。

四月十三日　雨。午前日本銃砲店に至り銃台の改修を依頼し，去て井手三郎，山田珠一を佐々木旅館に訪ひ，帰途同文会に田鍋安之助を訪ひ正午帰。五時井手三郎の招宴に山王下三河屋に赴く。安達，宮島，小池張造，江口定條，白岩，飯田延太郎等同座たり。九時散ず。

四月十四日　陰。心気不舒，終日不出門。

四月十五日　晴。是日荒賀，宮島，田鍋，井手等と鴻之台散策の約有り，夜来微恙の為め辞して行かず。荒賀の電報至る。

四月十六日　陰。名和中将，波多博に致書。板橋水野に金壱円を郵送し麦萌を購ふ。荒賀，宮島列，亀井戸よりの信片至る。荒賀に信片を発す。

四月十七日　晴。心気不佳，終日不出門。午後渋谷作助来訪。夜臼井医士来診。就寝後朝日新聞記者栃内吉胤外一人来，陸栄廷死去の入電有りしとて意見を問ふ。波多博の電報至。

四月十八日　晴。午前井手三郎，増田大佐来訪。

四月十九日　晴。心気不舒。午前荒賀直順来訪。有吉領事に致書。

四月二十日　晴。古川権九郎子息婚礼の請帖到る。之を辞す。佐原篤助に致書。午後白岩龍平来訪。三浦喜傳の信至る。横井太郎来訪。

四月二十一日　晴。三浦喜傳，安河内弘に致書。西田敬止来訪。

四月二十二日　雨。渋谷作助に信片を発す。

四月二十三日　陰。午後高田老松町に細川侯に伺候し，帰途古城宅を訪ひ，去て同文会に田鍋を訪ひ，六時共に出て華族会館の支那新聞記者歓迎会に出席す。記者団長は汪立元たり。主賓合せて六十余人。十時散ず。

四月二十四日　晴。鳥居の信片至る。昨日入京せりと云ふ。渋谷作助来訪。午後家族と三越に至り時計，戒指を購ふ。亀雄来訪，晩食後去。

四月二十五日　半晴。午前内人と三田に家具を購ふ。細川侯爵より結婚祝儀として鰹魚節一箱を賜はる。鳥居赫雄の信至る。

四月二十六日　雨。理髪後小橋一太を訪ふ。

四月二十七日　晴。是日丈夫と清子の結婚式を行はんとす。朝来之が準備に取掛る。午後四時家族と芝公園内紅葉館の式場に赴く。媒酌として小橋一太夫妻来会。四時半挙式，六時半披露宴を開く。来賓として森山，田中両海軍少将，藤瀬政次郎夫妻，山本条太郎，加藤，中島，白岩夫妻，西田敬止夫妻，伊東夫人，田中文蔵，古川，佃，荒賀，山内嵜，古城，速水，蓑田，尾越，小畑，高野，佐々木信綱，渋谷作助，山本増雄夫婦，木幡恭三夫妻，安達夫人，國分，玉野，夫人，沼川，田中，高木，田辺，横田定雄，猿渡末熊，井村，清水，矢幡，河野夫人，福田婦人，石黒，井野，山嵜婦人，内田友義，亀雄等主賓六十五人。余興として高砂，石橋外一番を演す。十時散ず。

四月二十八日　快晴。午後一時細川公爵邸の園遊会に赴く。立食の饗有り。土屋員安に会ふ。昨日入京せりと云ふ。来集者約五百人。散後荒賀，熊谷を一訪して帰る。

四月二十九日　晴。終日在家。安河内に致書。

四月三十日　晴。山屋軍令部次長より案内状至る。午前古城貞吉来訪。午後軍令部に到る。靖国神社大祭の為め休業。井上清秀に抵り小談，帰。亀井英三郎未亡人来訪。波多重雄，古閑信夫に礼状を発す。

五月一日　雨。田辺豊雄の信至る。午後六時軍令部次長山屋中将の招宴に赤坂三河屋に赴く。同座は森山，安保，田中三少将，中島中佐外四人なり。十時散ず。

五月二日　晴。上海波多，東和洋行に致書。回滬の期を報ず。五時内人と車を賃して中央亭に至り尾越辰雄の結婚披露宴に列す。来客百余人。洋饌の饗有り。十時散ず。

五月三日　晴。午前渋谷来訪。午後小村欣一を外務省に訪ひ，去て軍令部に田中，森山両少将，中島中

佐を訪ふ。森山少将の処にて参謀本部第二部長高柳少将と会談。帰途田鍋を同文会に訪ひ，三時半帰。加来敏夫其母堂と共に来訪。平岡小太郎の信至る。本日入京せりと云ふ。

五月四日　風塵甚大。午前香港より梅外来訪。午後田中少将耕太郎来訪。上海有吉領事，波多，八田に致書。賞勲局より勲記を送り来る。

五月五日　陰。理髪。午後内人と通三丁目日本銃砲店に至り修理せし銃台を受取て帰る。新橋栄次郎来訪せりと云ふ。雨。津田少佐に復書す。

五月六日　快晴。荒賀直順来訪。勲記領票を軍令部副官に郵送す。實相寺夫人に致書。是日畳を新調す。午前平岡小太郎，安河内弘，小幡夫人来訪。午後加藤壮太郎来訪。白岩龍平来訪。

五月七日　晴。終日在家。柳原又熊の訃至る。三日死去せりと云ふ。

五月八日　晴。終日在家。障子張を為す。

五月九日　晴。同上。夜内人と西田敬止を訪ふ。田中一郎来訪。

五月十日　雨。名和中将，伊集院大佐，白木少佐に致書。柳原未亡人に弔詞を発し奠儀三元を送る。北京伊集院大佐の信至る。名和中将の電報至る。明日午後来訪の事を通告し来る。之に復電す。夜宇土会に四谷三河屋に出席，九時帰。

五月十一日　晴。前五時半荒賀直順来訪。朝食を用ひず共に出て渋谷に至り，玉川電車に乗じ玉川畔下野毛に木村丑徳を訪ふ。談新話旧，中食の饗を受け，正午辞出。荒賀と青山にて分袂し，一時半帰。四時半横須賀鎮守府司令長官名和又八郎氏来訪，寛談五時半に至りて去る。

五月十二日　晴。前九時電車新宿追分に至り荒賀，山内，速水，宮島，田鍋と会し，十時京王電車にて調布を過ぎ府中に至り下車，大国魂神社に参拝す。馬場の両側欅の大木鬱々天に参す。源頼義の植ゆる所八百五十年前の物なり。多摩川畔に至り小亭に席して行厨を開く。食後川の左岸に沿て下り麦隴を歩し，府中に折回し停留所前の茶亭に休憩し，四時上車新宿に帰り一行と別れ，六時家に帰る。佃信夫来訪せりと云ふ。

五月十三日　陰。大西齋，佃信夫に致書。沼川墾助来訪。

五月十四日　陰。上海八田厚志の信至。午後速水一孔来訪。四時同文会の春季大会に華族会館に出席す。散後支那公使館員を邀へて会食，九時散。内田友義来訪。河口介男の信至。

五月十五日　晴。午後平岡小太郎を鍛冶橋外中央旅館に訪ひ小談。去て中央車站に至り乗車券と寝台券を購ひ，外務省に幣原次官を訪て帰る。横井太郎来訪。

五月十六日　晴。午前加藤壮太郎の新宅を小石川丸山町に訪ひ，暢談時を移し，帰途亀雄宅に名刺を留め，江戸川に至り古城貞吉を関口に訪はんとし，之に途に遇ふ。相携て江戸川より電車に乗じ飯田橋に分袂して帰る。長崎川村景敏，土佐屋，上海東和に信片を発す。大坂大西齋の信至る。之に復す。

五月十七日　雨。午前海軍省に田中，森山両少将，中島中佐副官部軍令部次長に抵り告別し，去て外務省に小幡政務局長を訪て帰る。

五月十八日　晴。朝木村丑徳来訪。午前海軍々令部副官部に至り七，八，九，三ヶ月手当九百円を受取り，去て正金銀行に至り本日上海より送来せる外務省手当四百円を受取り，東京駅に至り急行券を購ひ，同文会に根津一，田鍋，寺中を訪ひ小談。帰途西田敬止を訪て帰る。上海波多の信至る。日清汽船会社に白岩，大谷を訪ふ。正午亀雄来訪。渋谷作助に致書。郵船会社黒川新次郎に致書す。是日浦六郎の学資本年三月至八月六ヶ月分を同文会に納む。

五月十九日　陰。理髪。上大崎に小橋一太を訪ひ，帰途藤瀬政次郎に名刺を留て帰る。西田敬止来訪。明日を以て支那に向はんとす。行装を治す。

五月二十日　微雨。前七時半麻布北新門前の寓を出で上車東京駅に至る。中島中佐，荒賀直順，山内嵩，田鍋安之助，佃信夫，横井太郎，渋谷作助，安河内弘，賀来敏夫，内田友義，亀雄，丈夫来送。八時半開車。向井少将弥一，齋藤中佐恒同車たり。齋藤は吉林に赴く者なり。四時名護屋にて齋藤と

分袂す。車中向井と暢談。八時半大坂着，大西齋来迎菓子を贈る。神戸にて向井と叙別，就寝。

五月二十一日　晴。六時食堂に入る。中野二郎と邂逅す。西伯里亜に赴く者也。九時半下関着，車站にて小嵜順と遇ふ。上海より帰途なりと云ふ。中野と握別して門司に渡り長崎行急行車に乗ず。車中に中食。五時五分長崎着，投土佐屋。夜夏帽，紙類を購ふ。

五月二十二日　快晴。東京宅，並に熊本松倉，河口，田中，菅村に信片を発す。午前河村景敏を郵船支店に訪ふ。晩風邪の気味有り。食後直に寝に入る。

五月二十三日　晴。午前理髪。午後二時半土佐屋を出で税関埠頭に至り，三時の汽艇にて立神丸に搭ず。開船川村景敏来送。冨田壽男，阿部壽雄等同船たり。昨来微熱，心気不舒。食後入寝。

五月二十四日　快晴。海上平穏。早起入浴。心気頗る暢快を覚ゆ。毎食必ず食堂に於てす。

五月二十五日　雨。前七時呉淞口外に着す。水先案内者を待つ，不来。停船十一時に至て水先到る，即開船。午後四時半滙山埠頭に達す。島田，井手友，波多夫婦，八田，白木少佐，美土路来迎。波多夫婦と同車東和洋行に入る。佐々布，平川，成田，余洵来訪。岡本源次母堂の訃，石原醜男二女の訃，上原宇佐太郎厳君の訃音，並に郡島，古城，中川，田中清司，菊池豊吉，有働政喜，迎英輔，池田幸甚の信，佐々木武三郎，福田千代作の信片，並に大秦商会，朝鮮銀行等の案内状及び川本静夫二男の訃に接す。室内を整頓し夜更就寝。

五月二十六日　日曜日。朝井手三郎来訪。共に出て姚文藻，有吉を訪ひ，帰途白木少佐，波多を訪て帰る。神嵜，篠嵜，西本来訪。岡本源二，石原，上原，川本に弔詞を発し，岡本に奠儀三元を贈る。午後西本，波多，神嵜，山田岳陽来訪。六時薛徳樹，許善齋の招宴に小有天に赴く。波多，八田二夫婦，佐原，平野，中世古等なり。八時散。月色如秋。

五月二十七日　晴，熱。午前阿部壽雄，成田錬之助来訪。阿部の漢口行に托し山岡司令官，八角参謀，岡幸七郎，有働政喜，迎英輔に祝品答礼の袱紗を贈る。阿部政次郎，杉谷善蔵，鳴渓紀念会に致書。内人，丈夫，清子に致書す。海軍田中少将，中島中佐に書信を発す。是日上海知人に祝品の答礼を為す。八田厚志来訪。午後領事館に岸，伊藤，林出を，日報社に井手，島田を訪ひ，帰途篠嵜を一訪して帰る。四時大島新，谷口源吾，藤井太七，余洵，並に堀川某来訪。

五月二十八日　晴。午前理髪。美土路，磯谷大尉，波多を訪ふ。相良忠道，福田千代作に致書。波多来訪。午後友野盛来訪。安場末喜の信至る。野添熊太より養母阿筆叔母の死去を報ず。余少時愛撫の恩を蒙る浅からず。音容に接せざる数十年，一旦遠逝を伝ふ，誠に可悲也。六時神嵜，村上を訪ひ，七時山田純三郎の招邀に月廼家花園に赴く。同座は井手兄弟，塚原，佐原，神津，西本，波多，美土路，平川，渡邊等なり。十時帰。

五月二十九日　晴。午前三井に佐々布，新利，三田を訪ふ。午後波多来訪。四時有吉，林出を領事館に訪ふ。午後六時篠嵜の晩餐に赴く。同座は鳥羽艦長藤吉少佐晙以下士官四，五人と若杉要等なり。九時半散。新橋栄次郎の信至る。

五月三十日　風大。新橋に復し，野添熊太に弔詞を発し，叔母氏の香料として金五円を送る。大坂大西齋に致書。丈夫の信至る。阿部政次郎来訪。迎英輔に信片を発す。今井邦三来訪。

五月三十一日　半晴。安場末喜に復書し，横井小楠建碑寄附三円を送る。同時に鳴渓紀念会に金五円を寄附す。郵便局より波多，西本を訪ふて帰る。漢口八角中佐に致書す。海軍田中少将に致書す。土井伊八来訪。夜澤本良臣の病気帰国を送る。

六月一日　陰。午前西本来訪。午後波多，磯谷，櫻木，八田前後来訪。夜八田を訪ふ。

六月二日　陰。日曜日。午後阿部政次郎子息の葬儀に西本願寺に列す。六時八田厚志広東行の送別会に倶楽部に出席す。同座は西本，波多，平野，平川，美土路，中世古，島田，佐々布等なり。九時散。

六月三日　晴。午前山田純三郎来訪。午後柴田乙次郎，八田厚志来訪。海軍に報告を発す。松井石根来訪。夜實相寺貞彦をアストルハウスに訪ふ，在らず。島田を訪，九時帰。

六月四日　晴。午前實相寺貞彦来訪。午後井手を亜洲日報に，平岡を新利に訪ふて帰る。平川，平岡来訪。盧永祥，朱佩珍，沈鏞三人より本夕招宴の案内状至る。児玉，實相寺との先約有るを以て之を辞す。五時半土井伊八を誘て六三園の約に赴く。児玉謙次主人，来客實相寺，松井，佐原，土井，多田，副島，成田等なり。九時帰。

六月五日　晴。西本来訪。漢口山岡司令官，八角中佐の信，東京白岩龍平の信至る。午後内人に致書。六時成田と六三園の實相寺招待会に出席。会者十四人。九時退席，神嵜，波多を訪ふ。十時帰る。波多，八田来訪。

六月六日　晴。七時滙山埠頭鹿島丸に波多博，八田厚志夫婦，神嵜正助，山田純三郎の広東行を送り，八時帰。午後二時實相寺の帰国を税関埠頭に送り，電車南洋路に至り鄭孝胥を訪ふ，在らず。去て松井石根を威海衛路に，井手を亜洲日報社に，平岡を新利に，香月梅外を豊陽館に訪て帰る。香月来訪，待つ久之去れりと云ふ。川島浪速の信至る。

六月七日　半晴。午前理髪。香月を訪，在らず。上海日報社に井手，島田と談ず。午後鄭孝胥来訪。漢口阿部壽雄，有働政喜の信至。七時小有天に香月梅外を招き会食す。同座は井手，平岡，土井，成田，佐原等なり。十時散。雨。

六月八日　積陰。午前八時香月の北京行を車站に送る。成田，中西正樹来訪。中西は本日済南より来着せる者也。夜中西正樹を豊陽館に訪ひ，九時帰。

六月九日　微雨。日曜日。午前平岡，佐々布，平川，櫻木等を訪ひ，正午帰。午後谷口源吾，石井則之，島田数雄，林出賢次郎等前後来訪。

六月十日　陰。午後林出を領事館に，狄を時報館に訪ふ。夜中西を訪ふ。

六月十一日　雨。軍令部，有薗，大西，田中清司，丈夫の信至る。午後山田謙吉，支那新聞記者を伴ひ来訪。内人の信至る。白木少佐来訪。中西来訪。

六月十二日　陰。午後有吉領事を訪ひ，去て時報館に劉薌亭，包姓を訪ひ，五時帰。青島大倉喜七郎，阿多廣介，川口，石橋，郡島，石井久次，野口和之連名の信片至る。晩東方通信社に至り平野の報告の清書を依頼し，中西，白木を訪ふ。

六月十三日　快晴。是日陰暦端午節。漢口岡幸七郎の信至る。海軍に報告を発す。午後佐々木武三郎，平岡小太郎来訪。出て弓術を修む。

六月十四日　風雨。白岩，大谷，古城に昨日所得端陽即事一絶を郵寄す。

　　挙世皆汚君独清，汨羅沈骨不沈名，沢中漁父言何切，道破人間物外情。

午後有吉，井手友を訪ひ，四時河野豊蔵の追弔会に西本願寺に列し，五時半帰。

六月十五日　雨。午前井手来訪。波多香港よりの信片，高尾亨南京よりの信，漢口杉谷の書信に接す。午後平川清風来訪。夜中西正樹を豊陽館に訪ふ。内人，清子，岡本源次，海軍の信至る。台湾増田大佐，熊本井芹経平に致書。

六月十六日　陰。南京高尾に復書す。亀雄の信至る。岡幸七郎に復書す。午後上海日報に至り，去て佐々布を訪ふ。佐原より日本到来の枇杷を贈り来る。夜篠嵜を訪ふ。

六月十七日　半晴。西本来訪。午前有吉，中西を訪ひ，去て弓術を修む。熊本野添熊太，河口介男，田中憲輔の信至。午後中西，浦来訪。中西と出て土井，佐原を訪ふ。

六月十八日　半晴。午前理髪，弓術を修む。白岩龍平に復書す。

六月十九日　晴。午前白木，中西を訪ひ，弓術を修て帰る。午後中西正樹，大島新前後来訪。大島を留て晩餐し，七時共に出て豊陽館に至り中西を誘ひ，根津を竹島丸に迎へ，九時帰。

六月二十日　晴，熱。海軍少将吉田増次郎第三班長就任の通知至る。台北池田幸甚の信片至る。午後姚文藻を訪ひ，六時半春申社主催の同文書院内地旅行班送別宴に小有天に出席す。学生三十余名の外，美土路，平川，西本，佐原，島田等同座たり。九時散ず。吉田少将に復書す。竹下中将勇，並に東京

留守宅に致書す。杭州瀬上恕治の信至る。之に復す。

六月二十一日　晴。午前弓術を修む。午後村上貞吉来訪。夜高尾亨を豊陽館に訪ふ，在らず。今夕上船帰国の事を聞き名刺を留め，中西と暢談，帰。

六月二十二日　晴，熱甚。海軍に報告を発す。午前弓術を修む。宜昌迎英輔の信至る。

六月二十三日　雨。日曜日。副島綱雄来訪。午後篠嵜来訪。六時倶楽部に至り中西，井手と会食，九時帰。

六月二十四日　雨。午前美土路，中西前後来訪。中西と井手の処に至り，余は出，幡生を三井に訪ひ，中西の済南日報寄附金を受取り，井手の処に帰りて金子を中西に交付し，三人麺を吃して帰る。広東八田厚志の信至る。之に復す。七時県人会に先施公司東亜旅館に出席す。六層の高楼にて陳設頗清楚。来会四十人。十時散。平野健来訪。

六月二十五日　雨。平野健来訪，本月分手当を受取る。夜中西を訪ふ，不在。万歳館に磯谷大尉，白木少佐，美土路と談じ，十時帰。

六月二十六日　雨。海軍に報告を発す。午前海軍少佐藤吉俊来訪，明日帰朝すと云ふ。午後中西を訪ひ小談。去て弓術を修む。五時帰。佐々布来訪。丈夫の信片至る。之に復書す。亜洲日報社より車資六十元送来。

六月二十七日　晴，熱甚。午前波多を訪ふ，未だ帰らず。去て弓術を修む。午後五時藤吉少佐，阿多廣介の帰国を税関埠頭に送り，同時波多，神嵜の広東より帰るを迎ふ。夜中川義弥，波多博来訪。波多広東荔子と象牙箸一対を贈る。

六月二十八日　晴。午前桟橋会社金沢某来訪。根津同文書院長来訪。出て金沢を訪ひ，去て弓術を修め，正午帰る。海軍少佐白木豊，同蔵田直来訪。午後櫻木俊一，椎木眞一，鄭垂，及熊本出身書院学生中山優，本山外一名，並に中西正樹来訪。根津，青木喬に致書。余洵来訪，墨，筆，詩箋，墨台等を贈る。夜豊陽館に蔵田少佐，白木少佐，中西を訪。

六月二十九日　晴。広東八田に致書。午前弓術を修め，中西を訪ひ送行，本日の便船にて青島に帰るを以てなり。晩食後弓術倶楽部の水谷誠造外一人の送別会に出席，競射，十時に至て散ず。熊本田中清司に復書す。波多来訪。岑春煊本日広東行。

六月三十日　晴。午前弓術を修む。吉原忠八，山田岳陽来訪。吉原を運輸会社金沢清一に紹介す。同文書院学生の帰国に托し長野知事赤星典太に墨壺，並に墨八挺を贈る。午後一時半馬車を命じ同文書院に赴き第十五期卒業式に列す。内外人の参列者頗多し。五時式終，立食の饗有り。五時半帰。吉林齋藤中佐恒の信至る。之に復す。夜甲斐多聞太，川口直人外二名来訪。

七月一日　晴。午前理髪，弓術を修む。午後友野盛，青木喬，大島新，森茂，島田数雄，野尻筑前丸船長来訪，暮に及で去る。夜井手三郎を訪ひ暢談，帰途波多に抵り，十時半帰。微雨，熱甚。

七月二日　陰。午前白木少佐来訪。中食後弓術を修め，波多を訪ふ。白木少佐の信至る。同文書院卒業生濱田唯喜，野島某，田中英束来訪。十時根津，青木，友野の帰国を筑前丸に送る。船長野尻に名刺を留めて帰る。大雨。

七月三日　雨。内人の信至る。之に復す。平野来訪。午後七時佐原宅の晩餐に赴く。井手，島田同坐たり。十時散ず。帰途白木を訪ふ。

七月四日　晴。前八時白木少佐と金陵丸にて呉淞に至り，和蘭船ボンデル号に竹下中将を迎ふ。軍令部次長に転任の為め新嘉坡より帰京する者なり。暢談時を移し午後帰る。池田旭，浦六郎来訪。白岩龍平の信至る。

七月五日　陰。午前波多を訪ひ小談，去て弓術を修む。午後波多来訪。夜成田，坂田来談。広東八田厚志の信至。

七月六日　陰。午後弓術を修む。晩佐々布，中川外雄前後来訪。中川は漢口より帰来せし者也。

七月七日　晴。日曜。午前西本，神嵜，山田岳陽来訪。丈夫の信至る。午後弓術を修む。夜今井邦三来訪。

七月八日　晴。午前亜洲日報社に同人と会し，晌午弓術倶楽部に至り，正午帰る。報告を草す。

七月九日　微雨。午後余洵来訪。海軍に報告を発す。平岡小太郎来訪。

七月十日　晴。午前弓術を修め，山田謙吉の帰国を熊野丸に送る。井手三郎，谷口源吾前後来訪。田原豊の案内状至る。之に復す。午後波多来訪。七時村上貞吉宅の晩餐に赴て，十時帰。

七月十一日　晴。午前有吉を訪ひ，帰途弓術を修む。岡吉次郎来訪。夜佐々布を訪ひ，帰途山成を敲く。已に寝す。

七月十二日　晴。午前理髪。去て白木を訪ひ小談，弓術を修て帰る。午後三時半軍艦千代田入港に付き訪問の為郵船埠頭に赴く。汽艇の所在不明にて折回す。白木，弓術倶楽部に致書す。北京橘，三澤，郡島，実相寺，鷲沢，船津，楢嵜，渡辺等の信片に接す。林出，波多，石井則之其母堂妻女と共に来訪。山成和四夫来訪。

七月十三日　陰。北京山内嵓の信至る。午後櫻木俊一，軍艦千代田に山岡司令官を訪ひ暢談，五時半帰。六時出て弓術を修め，七時受雲亭の饗宴に倶楽部に赴く。林出，白木，磯谷，波多，平川，西本等同座たり。十時散ず。

七月十四日　日曜日。微雨。弓術を修む。山岡司令官，高橋参謀来訪。午後八角参謀，千代田副長福田佐武男，余洵，余章来訪。夜眞島次郎来訪。

七月十五日　半晴。午前白木少佐来訪。広東八田の信至る。海軍に発信，並に広東通信を送る。内人，丈夫に復書す。午後波多来訪。六時三菱田原豊の招宴に六三園に列す。来客三十余人。九時半帰。

七月十六日　半晴。時報館狄平に致書。午前林出を訪ひ，去て弓術を修め帰る。

七月十七日　雨。午前八角中佐，白木少佐，成田前後来訪。午後浦来訪。出て弓術を修む。晩櫻木俊一来訪。竹下中将，古城貞吉，同文会の信至る。夜成田，坂田と談ず。

七月十八日　微雨。赤星典太，根津，田鍋，森山少将に致書す。北京山内嵓，佃信夫に致書す。岡吉次郎来訪。奉天脇坂列の信片至。午後弓術を修む。波多来訪。中川外雄を勝田館に訪ふ。其夫人病気の為帰国する者也。時報館より正月至六月参百元送来。余洵来訪。夜島田を誘ひ滙山碼頭山城丸に井手友喜，田原豊，中川外雄の帰国を送り，十時帰る。高木陸良来訪。

七月十九日　晴雨無定。午前白木を訪ふ，在らず。蔵田鳥羽艦長と立談，去て弓術を修め，帰途篠嵜，波多を訪ひ，正午帰る。午後第七戦隊司令官山岡少将来談。夜中川外雄夫人の病を問ふ。昨来発狂せる者也。是夜支那巡査と邦人間に衝突有り。

七月二十日　晴。午前白木少佐，篠嵜を訪ひ，弓術を修て帰る。北京山内嵓，田尻繁，米国寺嵜辰男の信至。広東八田厚志に致書す。西本を訪ひ前借八十元を還附す。

七月二十一日　晴。午前弓術を修む。井手来訪。午後犬を伴ひ北郊に至り水浴せしむ。雨に遇ふ。佐々布宅に暢談，五時帰る。瀬上恕治来訪，杭州より九江領事に転任する者なり。

七月二十二日　晴，熱甚。午前山成，山田純来訪。正午井手の午餐に一品香に赴く。瀬上，島田，平川，西本，岡吉同座たり。二時散ず。帰途弓術を修む。夜郡島忠二郎，八角三郎，中西正樹来訪。郡島，中西，本日北支那より来着せる者也。

七月二十三日　晴。午前豊陽館に白木，八角，中西を訪ふ。中西は本日青島に帰る者なり。有吉，林出を領事館に訪ひ，帰途弓術を修む。午後郡島を訪ふ。櫻木俊一来訪。夜篠嵜宅の晩餐に赴く。笹川潔，井手，島田，佐原，西本，波多，美土路，平川同座たり。十時半散。青木喬の信至。

七月二十四日　晴。午前白木を訪ひ，去て熊野丸に郡島，多賀，山成の帰国を送り，三井に藤村義朗を訪ひ小談。午後王統一，狩野直喜の紹介にて来訪。笹川来訪，漢口岡に紹介状を与ふ。夜井手三郎来訪。石橋藤次郎，藤吉朕の信至。是夜月明如秋。

七月二十五日　半晴。午前山岡司令官，成田，王統一来訪。王を沈子培に紹介す。晌午出て弓術を修め，波多を訪て帰る。柏木忠太郎来訪。午後七時藤村義朗，幡生弾二郎，飯森梅雄の送別会に倶楽部に出席，九時帰。渡辺天洋来訪。

七月二十六日　晴。朝王統一を訪ふ。弓術を修む。午後広東八田の信至。七時藤村義朗，林徳太郎，幡生弾治郎の招宴に倶楽部に出席，十時散ず。井上雅二を招き，井手，平岡，根津，山田等と小談，十一時帰。内人の信至る。

七月二十七日　晴，熱甚。午前井上雅二を訪ひ小談，弓術を修て帰る。高柳敬勇より土産を送り来る。吉田少将，並に内人に致書す。坂某来訪。夜村上，神嵜，高柳敬勇を訪ふ。

七月二十八日　晴。前十一時西本願寺山田良政の追弔会に列す。昔年恵州の変に殉せし者也。夜林出来訪。共に出て山田純，藤村義朗の帰国を埠頭に送る。

七月二十九日　晴。午前成田と山岡司令官を千代田に訪ひ，晌午帰。有薗，中川淳，井手友の信至。午後波多来訪。是日土用の丑日，夜波多の処に鰻飯を喫す。

七月三十日　狂風揚塵。午前弓術を修む。浦来訪。根津院長，田鍋に致書，浦身上の事を商す。井手来訪。其東道にて新鵜に至り島田，不破，外二人と鰻飯を吃し，九時帰。

七月三十一日　晴，風大。午前弓術を修め，美土路，白木を訪ふ。正午帰。浦生来訪。午後山岡少将来訪。

八月一日　晴。広東八田厚志の通信，並に田中清司，相良忠道，川島浪速，塩島少佐の信に接す。午後波多を訪ふ。

八月二日　晴。午後弓術を修む。海軍に報告を発す。平野来訪。

八月三日　快晴。午前理髪。豊陽館に白木少佐を訪ふ，在らず。弓術を修て帰る。中川淳，菅村三之等の信至る。千代田艦長上田大佐来訪。川島浪速，塩島少佐，相良忠道に復書す。伊藤忠支店中村信太郎，奥田澤二の案内状至る。之に復す。八角中佐来訪，千代田明朝出港漢口に赴くと云ふ。夜白木，磯谷を訪ひ，九時帰。王統一来訪。千代田副長福田中佐武男来訪。

八月四日　半晴。日曜日。午前北郊に至り犬を浴せしむ。雨に遇ふ。広東八田の通信至る。午後井手三郎，波多博来訪。

八月五日　晴。午前王統一を伴ひ南洋路に鄭孝胥を訪ひ暢談。晌午弓術倶楽部に至り射を試む。浦生来訪。武居鴻三郎，伊藤経眞の信至。夜成田来談。

八月六日　晴。午前平岡を訪ふ。弓術を修て帰る。七月分手当領事館より送り来る。不破孝太郎来訪。夜波多を訪ふ。

八月七日　陰。朝王統一来訪，本日京都に帰ると云ふ。狩野直喜に致すの書信を托す。海軍に発信す。十一時熊野丸に笹川潔，不破孝太郎，王統一を送る。阿多廣介，河口介男，八田厚志，菅村逸夫等の信至る。菅村三之，河口介男，田中清司，伊東経眞，池田幸甚に復書す。田鍋安之助，山田謙吉の信至る。午後森恪来訪。

八月八日　半晴。午前井手，姚を訪ふ。小泉土之丞の信至。午後七時伊藤忠会社中村信太郎，奥田澤二の招宴に倶楽部に出席す。会場の舞台に水を湛へ小瀑を造り泉石の間青色の電灯にて百千の蛍火に擬し，趣致甚雅。十時散。帰途波多の処に談ず。是日立秋に属す。

八月九日　半晴，熱甚。午前中村信太郎，奥田沢二来訪。山田謙吉，小泉土之丞，石橋藤次郎，米国寺嵜辰男に復書。波多来訪。内人に致書。金二百〇二円三三を正金為替にて送る。午後弓術を修む。夜成田来辞，今夕漢口に帰ると云ふ。岡に致すの書信を托す。九江瀬上恕治，柏木忠太郎，熊本馬場鼎の信至。十時中村信太郎を近江丸に送る。

八月十日　半晴，熱甚。午後神嵜来訪。島田来訪。

八月十一日　晴，熱甚。田鍋に致書す。井手を訪ひ小談，去て弓術を修む。

八月十二日　晴，酷熱。午前弓術を修む。
八月十三日　半晴。是日陰暦七月七日先妣の忌辰たり。霊位を設て時物を供し祭を致す。先妣を喪してより星霜正に四十七年矣。
七夕先妣忌辰書感
天上佳期歓此夕，人間我独恨綿綿，慈顔彷彿尚如在，風樹感深五十年。
霊の前に手向けし饌のくさくさをいさきこしめせ我にも給ひそ
午後山岸久雄，浦六郎来訪。
八月十四日　晴。東京宅に致書す。午後波多，佐々布来訪。中日実業公司周晋鑣，李銘，右近末穂等より案内状至る。海軍白根副官より三百金の送状至る。田鍋安之助，佐野直喜，谷口源吾の信至る。
八月十五日　晴。午前白木少佐来訪。田鍋，山内，森山少将，津田少佐，亀雄，王統一，不破孝太郎，内田友義，何盛三，葉室，清子の信至る。田鍋に復書す。眞島次郎に一書を致す。午後弓術を修む。林出来訪。
八月十六日　晴。午後波多，美土路来訪。美土路暑中見舞としてサイダー一打を贈る。
八月十七日　雨。報告を草す。波多来訪。姚氏の信至る。夜中日実業公司の披露宴に倶楽部に出席す。周晋鑣，李銘，右近末穂等主人たり。来賓日支人二百名，九時散。
八月十八日　陰。西本来訪。田上二雄の信至る。海軍に報告，並に金子領収証を発し，別に白根副官に復書す。清子，津田少佐，何盛三，葉室，内田友義に復書す。別に北京佃信夫，姚，横井太郎に致書す。岸至来訪。午後寺中猪介に太原武慶への見舞金五円，佐野直喜に高橋長秋氏還暦の祝品代五円，並に東洋協会に正月至六月会費三円を郵送す。午後三時より雷雨甚烈。長井江洐より其詩稿を贈り来る。
八月十九日　雨。午前美土路，井手を訪ふ。弓術を修て帰る。森恪の案内状，並に田中耕太郎，田鍋安之助，森長次郎，眞島の信至る。
八月二十日　雨。山岡司令官，吉田少将に致書す。八角中佐，並に東京宅，丈夫の信至る。丈夫に復書す。午後弓術を修む。晩森恪の招宴に六三園に赴く。幡生，佐原，有吉，井手，神嵜，篠嵜，竹内，金平，松井以下十余人，九時散。月色皎潔，虫声有秋意。
八月二十一日　晴。午前幡生を三井に訪ふ，在らず。神嵜と小談，去て中川外雄を訪ふ。中川は本夕漢口に赴き，幡生は明早の船にて帰国する者なり。河口虎夫，吉田寿三郎，甲斐多聞太，同文会の信至る。
送幡生弾次郎之帰国
驪歌唱罷黯魂銷，話別江干坐半宵，此去武州秋色好，一竿風月儘逍遥。
波多，長井来訪。七時正金銀行橋爪の招宴に六三園に赴く。本日来着の小田切萬壽之助，小林和介等主人たり。来賓四十余人，九時半散。
八月二十二日　晴。午前弓術を修む。午後浦六郎来訪，新嘉坡に赴く者なり。井上雅二に添書す。報告を作る。晩食後月に歩して正金銀行に小田切，小林を訪ひ名刺を留め，電車北四川路に平岡を訪ひ小談，去て佐々布を敲き，九時半帰る。有働政喜夫婦来訪，本日漢口より来着せりと云ふ。
八月二十三日　晴。朝有働夫婦を訪ひ小談。去て郵便局に至り海軍に報告を発し，去て弓術を修め，波多を訪て帰る。午後三井細谷利恵来訪。成田錬之助，沼川墾助の信至る。長井江洐を訪ふ。夜東京田鍋の電至。
八月二十四日　晴。朝森恪の北行を車站に送る。午後余洵来訪，白木少佐来談。夜藤村義朗，王統一，古閑信夫の信至。古閑は肥後銀行山鹿支店に転任せりと云ふ。
八月二十五日　半晴。午前弓術を修む。八角中佐，田中少将，藤村義朗，成田錬之助，王統一，古閑信夫，沼川墾助，吉田壽三郎，河口虎夫に復書す。夜神嵜を訪ふ。

八月二十六日　半晴。午前波多を訪ひ其義弟の帰京に托し硯，袋を留守宅に托送す。中島為喜北京よりの信至。東京宅に致書。広東八田の報告至る。

八月二十七日　晴。午後波多来訪。

八月二十八日

八月二十九日　雨。午前理髪。午後姚氏を訪ふ。途中雨大至。午後長井江洐，篠嵜来訪。内人の信，並に郡島の長男の訃至る。夜波多来訪。長井江洐の室に談ず。

八月三十日　晴。秋意可人。午前弓術を修む。領事館より八月分を受取る。中川義弥，波多博来訪。海軍に報告を発す。

八月三十一日　雷雨。正午亜洲日報創立期年の祝宴に一品香に列す。洋饌の饗有り。散後東方通信社に至り小談，去て平岡を訪ふ。漢口山岡司令官の書信至。佐々布来訪。横井太郎の信至。夜井手を訪ふ。郡島に弔詞を発す。

九月一日　陰。日曜日。余殼民の婚事を祝し四金を贈る。中村新太郎の信至る。中村，中島為喜，森長次郎に復書す。午後有働来訪，中川外雄の信至。夜佐々布，平川を訪ふ。

九月二日　陰。午後井手来訪。七時佐々布と同車，余殼民の婚儀に孟淵旅館に列す。八時半散ず。佐々布来談。

九月三日　陰，残炎甚烈。田鍋より浦六郎の学資八十円（四十九元八角）電滙し来る。田鍋に復書す。佐野直喜の信至。午後大雨。入夜晴。

　秋夜読書

　古の文よみはてゝ曇なき心の空に月すみ渡る

九月四日　午後雨。内人に致書，金二百員を送る。弓術を修め，白木を訪ふ。北京佃信夫の信至る。

九月五日　晴雨不定。午後波多来訪。夜篠嵜を訪ふ。

九月六日　微雨。傷咽喉心気疲倦。午後成田錬之助来訪，紅茶一箱を贈る。本日漢口より来着せる者なり。甲斐多聞太，田尻繁来訪。夜成田を訪ふ。

九月七日　晴。有微熱，篠嵜医院に赴き受診。大島新，岡吉次郎来訪。水谷誠造，有働夫人の信，並に棉花会社今村権九郎の案内状至。

九月八日　日曜日。陰。午前同文書院に根津，渡島，眞島を訪ひ，大島の処に中食，大島と共〔に〕出つ。途中雨大に至る。三時帰寓。高尾亨，林出，今村権九郎，柏原文太郎，並に熊本出身同文書院学生七，八人来訪。八田厚志の信至。是日眞島に浦六郎の旅費七十五元中六十元を返却す。

九月九日　微雨。午前理髪。有吉，若杉，高尾，柏原等を訪ふ。成田来訪。晩波多来談。

九月十日　半晴。午前弓術を修む。海軍に発信す。岡幸七郎，東京宅の信，並に熊本松嵜雀男より其夫人の訃に接す。七時日信洋行今村権九郎の招宴に六三園に赴く。同座三十余人，九時半散。

九月十一日　半晴。午前根津一氏来訪。午前弓術を修む。池田旭来訪，中食を共にす。午後二時より北郊に猟す。鳴二羽を見たるのみ。六時帰る。広東八田厚志の信至。

九月十二日　半晴。午前成田，池田を訪ふ。佃信夫，八田厚志，水谷誠造に復書し，別に松嵜雀雄に弔詞を発す。丈夫の信至る。永井江洐来訪。西本来談。秋涼頓催。

九月十三日　晴，冷気可人。十時成田錬之助の帰国を送る。高橋正熊，南洋より帰るに逢ふ。土佐孝太郎を日清汽船会社に訪ふ，不在，去て弓術を修め，波多の処に小談。夜西本，平岡を訪ふて帰る。佐々布，柳原未亡人来訪。

九月十四日　晴。午前井手，柏原，白木等を訪ふ，或在或不在。弓術を修め，波多を訪て帰る。谷口源吾の信至。午後姚文藻を訪ふ。夜佐々布を訪ふ。

九月十五日　晴。午前井手を訪ふ。午後谷口源吾，友野盛来訪。

九月十六日　晴。北京伊集院大佐に広東通信一部を郵送す。

九月十七日　微雨。柏原文太郎来訪。根津氏の請帖至る。
九月十八日　朝微雨，午後晴。終日報告を作る。吉田少将，幡生弾治郎，郡島の信至る。王統一来訪。海軍に報告を発送す。海軍より十，十一，十二，三ヶ月分手当を送り来る。
九月十九日　晴。是日陰暦中秋節たり。午前白木少佐，土佐孝太郎来訪。海軍白根副官に金子領収証を送る。漢口山岡少将，八角中佐に致書。報告写を送致す。北京橘，牛島，市原に復書す。午後北郊に猟す。四時帰る。波多来訪。
九月二十日　晴。午前理髪。郵船伊吹山より舟遊の案内至る。午後六時根津一氏の招宴に一品香に赴く。同座有吉，井手，松井，白木，大島，篠嵜，柏原，以下数人也。九時散。
九月二十一日　晴。王統一来訪，本日温州に帰省すと云ふ。内人の信至る。午後波多を訪ひ，弓術を修て帰る。阿部政次郎来訪。六時半櫻木俊一，村井啓次郎の招宴に倶楽部に出席す。九時散ず。十一時井手と車站に至り高尾亨の北京行を送る。
九月二十二日　晴。日曜日。午前森茂来訪。午後三時郵船会社伊吹山主催の舟遊に参会，金陵丸にて呉淞に赴き砲台湾に上陸し散歩，少時にして船に帰り，六時開船食卓に就き晩餐の饗を受く。少焉月林梢に出で清風衣を満ち快言ふ可からず。九時郵船埠頭に達し下船，寓に帰る。同遊者は有吉，松井，白木，井手，若杉，佐原，以下数人と郵船社員十余名なり。
九月二十三日　晴。午前三井に幡生，神嵜を訪ひ，帰途平岡と少談，正午弓術を修て帰る。午後渡辺天洋来訪。
九月二十四日　晴。午後塩島少佐，白木少佐，林出，中川来訪。七時村井啓次郎の送別会に出席。散後豊陽館に塩島少佐の漢口行を送る。伏見艦長として赴任する者也。
九月二十五日　晴。午前井手を訪ふ。午後長井江洈来訪。平田久より野猿腿一塊を贈り来る。夜今井邦三，松永某来訪。
九月二十六日　半晴。田鍋安之助，岡西門，東京宅の信至る。田鍋に復書し，熊本松倉に致書す。美土路昌一来訪。正午亜洲報館井手の処にて餃子を会食す。
九月二十七日　晴。午後波多を訪ひ，去て弓術を修め，白木少佐を訪ふ。受雲亭母堂の訃に接し奠儀を贈る。夜篠嵜来訪。内人に復書す。
九月二十八日　雨。午前神嵜正助，並に細川侯派遣生宮川守善来訪。脇坂岳虎の信至。午後平岡を訪ふ。広東八田の通信至る。軍令部に致書。八田の報告を転致す。平岡来訪。
九月二十九日　晴。前八時の汽車にて幡生，神嵜，平岡，三田と蘇州に猟す。雉子一羽を獲，五時の汽車にて帰。
九月三十日　晴。午前波多を訪ふ。外務九月分手当を受取る。午後波多来訪。
十月一日　晴。午前理髪，白木少佐を訪ふ。午後波多来訪。八田，成田の信至る。
十月二日　晴。午前井手を訪ふ。漢口八角中佐に発信す。野満四郎，山田純の信至。午後姚文藻を訪ふ。夜多賀大佐宗之，川口市之助，佐々木武蔵来訪。
十月三日　晴。是日蘇州に猟せんとす。事を以て止む。午前橘三郎来訪。午後白木少佐を訪ふ。蔵田少佐に逢ふ。川口市之助同伴姚文藻に抵り紹介す。王統一の信至。
十月四日　晴。午前蔵田少佐来訪。午後幡生，神嵜来訪。六時有吉領事の招宴に其邸に赴く。根津，大島，井手，森，林出，若杉，眞島同座たり。十時半散。
十月五日　陰天。午前海軍に報告二通を発し，豊陽館に蔵田少佐を訪ひ別を送る。佐世保転任，本日帰国する者也。午後竹内克巳来訪。十二時四五分の汽車にて幡生，神嵜，平岡，江藤と鎮江に赴き，夜萬全楼に宿す。
十月六日　晴。前五時より戴生昌の汽船を賃し丹徒に赴き猟す。終日跋渉，只鶉一羽を獲たるのみ。六時半鎮江に帰り萬全楼に入り，夜十一時轎に乗じ車站に至り，午前一時の汽車に乗ず。

十月七日　晴。前七時上海着。内人の信に接す。西本来訪。中食前就寝。午後発熱。林出来訪。

十月八日　晴。山内嵓の信至。午前有吉，白木を訪ふ。午後軍艦千代田に山岡司令官，八角参謀，上田艦長を訪問，三時半帰。六時日華紡績会社和田豊治の招宴に倶楽部に出席，散後櫻木と同車帰。八角中佐来訪せりと云ふ。是夜猟犬又走失，自ら出て諸方を捜索すれども得ず。

十月九日　晴。山岡司令官，岸至来訪。午後波多，佐々布，上田大佐，八角参謀来訪。迎英輔の信至。山岡少将と談，夜更に及ぶ。

十月十日　半晴。是日支那国慶日の双十節也。早朝山岡司令官来訪。前夜失ふ所の猟犬突然帰来す。八時山岡氏と出て井手を訪ひ小談，去て豊陽館に白木万歳，磯谷，王統一を訪て帰る。夜佐々布，武田を訪ふ。是日徐世昌就任大総統。

十月十一日　晴。午前理髪，弓術を修て帰る。午後波多来訪，五時共に出て申報館の新築落成披露会に赴く。散後井手と雅叙園に晩食して帰る。

十月十二日　半晴。阿部晋雄来訪。午前三井に幡生を，新利に平岡を訪ひ小談，去て美土路，白木，橘を訪ふ。野満に復書す。美土路来訪。夜山岡司令官を隣室に訪ふ。

十月十三日　晴。日曜。是日陰暦重陽節たり。前八時の汽車にて大串，美土路，大貞丸船長某と蘇州に猟す。雉子一羽を獲，五時の汽車にて帰る。田中清司の転居通知，並に篠原邦威の訃至る。

十月十四日　晴。午前弓術を修む。

十月十五日　晴。午前郵便局に至り海軍より送金六百円を受取り，島田，白木と小談，帰る。午後山田謙吉，西本省三，波多博，根津一氏来訪。佐々布来談，留て晩食を共にす。八田の報告至る。

十月十六日　晴。朝東京宅に金六百員を滙送す。車站に至り受雲亭の甘粛に帰るを送る，到らず。領事館に伊東書記生を訪ふ。今回岩崎栄蔵と交代して帰国する者也。篠原正夫に其兄邦威を弔し奠儀三員を送る。八角中佐，波多夫婦来訪。

十月十七日　快晴。海軍に発信。東京宅に致書。午前伊東金次郎，井手三郎，中川義来訪。正午伊東の帰国を筑後丸に送る。午後姚来訪。三時有吉を訪ひ，転じて姚文藻に抵る。帰途井手，山田謙吉を亜洲日報に訪ふ。迎英輔に復書す。

十月十八日　晴。井上良平より杭州柿を贈り来る。千代田艦長上田吉次，大主計曾根昌一，白木少佐来訪。医学博士丹波敬三北京より来着，之と小談。午後丹波博士来訪。菊池虎蔵の信至る。之に復す。狄楚青に致書。夜姚文藻来訪。

十月十九日　晴。終日報告を作る。八田，川口市之助，安場末喜の信至る。夜佐々布，平岡を訪ふ。陰暦九月望日，月色高潔。狄平来訪。

十月二十日　半晴。日曜日。午前友野盛，柏原文太郎，菊池酉治来訪。午後篠嵜を訪ひ，弓術を修て帰る。夜長井金風来訪。

十月二十一日　陰。午前井手を訪ふ。晌午理髪。鄭垂来訪。午後出て鄭孝胥父子を訪ふ。千代田副長来訪。隈元喜助来訪。

十月二十二日　雨。午前有吉を訪ふ。午後二時井手と軍艦千代田に到り，上田艦長其他を訪ひ別を叙す。明後日出港するを以てなり。山岡司令官，八角中佐と談じ，三時帰る。姚文藻を訪ふ。中川芳三郎，熊本教育会の信至。

十月二十三日　晴。海軍に報告を発す。白木の病を訪ふ。山成和四夫来訪。正午三井林徳太郎の招宴に六三園に赴く。松井，磯谷，井手，神嵜，佐原，平田同座たり。三時散ず。同文書院に至り新築入札の事を会商す。散後支那料理を会食し，相原と共に帰る。

十月二十四日　晴。午前井手兄弟を訪ふ。去て美土路，白木，柏原を訪ひ，正午帰る。八田の報告至る。松倉の信至る，之に復す。林出賢二郎，岡吉次郎，井手友喜，篠嵜都香佐前後来訪。村井啓次郎，會田常夫の信至る。

十月二十五日　晴。隈元来訪。丹波博士を訪ひ小談。井手来訪。大坂鳥居に復書す。美土路昌一来訪。午後齋藤卯門の葬儀に東本願寺に列す。波多来訪。中川芳三郎，村井啓次郎に復書す。八角中佐，佐々布来訪。六時半美土路の送別会に先施公司東亜酒楼に列席，九時半帰。

十月二十六日　晴。午前八時半より井手，波多，篠崎と軍艦須磨に至り山岡司令官，八角中佐，宮村艦長を送別す。本日午後漢口に赴くを以てなり。宮川守善の信片至る。午後平川清風来訪。夜中川義弥，山成和四夫来訪。

十月二十七日　晴。日曜日。前八時山成と北郊に猟し，正午帰。獲る所無し。川口虎夫の信至る。夜武田，波多来訪。内人の信至る。

十月二十八日　晴天。朝伊集院大佐を豊陽館に訪ふ。昨夜来着せる者なり。波多を訪て帰る。丈夫に致書す。午後伊集院大佐，菊池少佐，深沢暹前後来訪。深沢は汕頭赴任の途次なり。広東八田の信至る。是日十月分手当を受取る。森恪，塚本恵来訪。五時美土路，中川の帰国を送る。帰途深沢を訪ひ小談。柏原に名刺を留む。今夕帰国するを以てなり。井手友，島田と宝亭に至り晩食す。

十月二十九日　陰。四川本山義人の信片，並に大阪伏田清三郎の訃至る。欧米漫遊当時の同伴者也。六時井手宅の晩餐に赴く。深沢暹，篠嵜，佐原，島田，西本同坐たり。九時散ず。雨。近江丸に根津一氏の帰国を送る。

十月三十日　晴。午前弓術を修む。井手来訪。午後七時白木少佐の病を篠崎医院に問ひ，去て伊集院招待会に倶楽部に出席。同坐は井手，佐原，菊池少佐，磯谷大尉，篠嵜，日下，櫻木，波多，西本，神嵜の十二人なり。十一時散ず。藤田豊八来訪。

十月三十一日　陰。天長節。前九時領事館に御聖影を謁す。丈夫の信片至。中食後弓術大会に出席。雨甚。六時半出て伊集院を豊陽館に訪ひ小談，帰。

十一月一日　雨。九時伊集院の北行を豊陽館に送り，弓術を修て帰る。海軍機関大佐松本熊吉来訪せりと云ふ。午後松本熊吉，島田数雄を訪ふ。広東八田の報告至る。

十一月二日　陰。午前弓術を修む。伏田清一に弔詞を発す。午後同文書院修学旅行より帰来せる本山義人，中山某来訪。六時篠嵜の晩餐に赴く。藤田剣峯，伊吹山徳司，井手，佐原，深澤，西本，山田謙同座。十時半散。

十一月三日　晴。午前深澤暹の汕頭行を送る，及ばず，弓術を修め，理髪して帰る。飯塚卯三郎来訪。午後報告を作る。阿部野の信至る。晩雨。

十一月四日　雨。報告を作る。午後亜洲日報社の編輯会議に出席，散後白木の病を問て帰る。井手，山田謙吉来訪。阿部野に復書す。

十一月五日　雨。海軍に報告を発し，弓術を修め，上海日報社に至り，正午より井手友，島田と永安公司井手の午餐に赴く。藤田剣峯同坐たり。二時散ず。

十一月六日　雨。友野盛来訪，伊吹山徳司に紹介す。波多来訪。夜山成，佐々布を訪ふ。

十一月七日　雨。伊集院の信至る。午後弓術を修む。河口虎夫に復書す。

十一月八日　雨。伊藤金次郎，篠原正夫の信至。東京宅に致書す。西澤公雄，池永林一を訪ふ。午後

十一月九日　雨。午前松本熊吉，池永林一，井手三郎来訪，本日八幡丸にて帰国する者也。木村中佐恒夫，遠藤保雄，菊池少佐，西山武八来訪。木村は長沙より帰来せる者也。中食後八幡丸に至り，井手三郎，池永林一，松本熊吉の帰国を送る。

十一月十日　新晴。日曜日。午前木村恒夫，遠藤保雄宅に訪ふ。帰途村上貞吉宅に小談，正午帰る。内人の信至る。午後井手友喜を訪ひ，去て弓術を修む。

十一月十一日　陰。井手友喜来訪，菓子一箱を贈る。終日報告を作る。是日午前五時聯合国独逸と休戦条約成り，十時より各線の戦闘を停止す。

十一月十二日　微雨。海軍に報告を発す。晩佐々布，林出来訪。

十一月十三日　雨。藤村義朗，並に丈夫に致書す。木村中佐来訪，田鍋，宮島，床次，内田康哉に紹介状を作り之に与ふ。内人に復書す。友野盛，波多博来訪。

十一月十四日　微雨。午前理髪，北四川路に至り木村恒夫を訪ふ，不在。山成，平川を訪ひ，正午帰。姚文藻来訪。平川清風来り明日より青島に赴くを告ぐ。恭親王，升允，吉田茂に紹介の名刺を与ふ。晩神嵜，藤田剣峯来訪。藤田は今夕上船広東に赴くと云ふ。九時出て其行を送る。伊藤竹之助の信至。

十一月十五日　陰。午前弓術を修め，白木を訪ふ。夜山田謙吉，波多博来訪。

十一月十六日　微雨。午前弓術を修む。午後佐々布，平岡を訪ふ，不在。晩平岡来訪。

十一月十七日　晴。日曜日。午後衆議院議員松永安左衛門，日高進，山岡少将の紹介にて来訪。三井銀行員土屋計左右，書画帖を以て余の旧作送浦敬一之詩を索む。晩森茂，大島新，林出，波多来訪。大島を留て晩食を共にす。軍令部，西沢公雄，美土路，井手の信至る。

十一月十八日　快晴。午後松永安左衛門，井手友喜を訪ふ。晩篠嵜，土屋計左右来訪。是夜犬又た走失す。

十一月十九日　健晴。午前犬を捜索すれども得ず，波多の処に至り小談。午後白木，磯谷来訪。島田を訪ひ小談。夜佐々布来訪。姚文藻来談。

十一月二十日　快晴。午前波多，井手，白木を訪ふ。前夜失走の猟犬中村洋行より送り来る。午後中村を訪ひ礼を述べ，新利洋行に小談，呉淞路吉田歯科医の処に至り歯の治療を受く。夜山成，波多来訪。

十一月二十一日　陰。午前歯療を為す。弓術を修む。是日より起て三日聯合国居留民の戦勝祝賀会の催有り，全市雑踏如湧。夜に入て市中到処電灯を以て飾られ，宛然不夜城の観有り。午後通信社に至り学生の旗行列を看る。其数約一万人。平川清風青島よりの信至る。

十一月二十二日　快晴。歯療を為す。丈夫に致書す。午後佐野の紹介にて大阪人村地久治郎来訪，鮎の糟漬を贈る。白木少佐，波多，平岡両夫婦来遊。是日自動車馬車の行列有り。

十一月二十三日　陰。午前兵頭獣医の処に至り犬の耳疾を治療す。山成，佐々布を訪ひ，晌午帰。岡幸七郎の詩信に接す。午後林出，波多来訪。夜通信社に至り炬火行列を看る。各国僑民の参加する者約七八千人。十一時帰。

十一月二十四日　快晴。午前理髪，犬を牽き兵頭の処に至り，帰て吉田歯科医に抵り，晌午帰寓。安藤万吉の信至る。明朝より山成，石崎と杭州に猟せんとす。装を治す。海軍に発信す。丈夫の信至る。

十一月二十五日　快晴。前七時半の汽車にて石嵜良二，山成和四夫と杭州に赴き，十二時半艮山門に着し，茶店に投じて猟装を治し，直に猟区に入り下菩薩附近を猟し，連射雉子二羽を落し，一羽を失ひ，五時茶店に帰り，六時の汽車にて拱宸橋に至り大方桟に投じ，隣屋の大春に至り晩食す。

十一月二十六日　晴。七時半より大関，松木厰の間を猟し，一羽を落して又た之を失し空手にて帰る。

十一月二十七日　陰。前七時半より大関一帯に猟し山鴫一羽を獲，三時帰る。石嵜は是日午後上海に帰れり。晩大春に食す。

十一月二十八日　半晴。五時半大方桟を出で車站に至り，六時の汽車にて杭州站に至り上海行の汽車に投じ，十二時七分着。山成と別れ帰寓。平川清風，井手友喜前後来訪。平川は昨日山東より帰来せりと云ふ。丈夫の信に接し内人流行感冒に罹り臥床中の事を知る。田鍋の信，並に呉大五郎，團琢磨，米山梅吉列の案内に接す。柏原文太郎より其母堂死去の訃至る。柴田乙次郎，上塚司来訪。上塚は熊本人にて満鉄に在職せる者，江藤哲蔵の紹介状を持参せり。夜波多来訪。藤田豊八の信至。

十一月二十九日　晴。午前犬の治療を了し，山成を訪ふ。午後菊池虎蔵来訪。内人，丈夫，田鍋に致書。柏原文太郎に弔詞を発す。藤田諭一来訪。歯の治療を受け，村地久治郎を万歳館に訪ふ。山田純三郎厳君の訃に接す。山田に弔詞を発す。

十一月三十日　陰。水野梅暁，上塚司，姚文藻，波多，平野，榊原元一来訪。外務省よりの手当を受取る。明日嗣子丈夫入営に付き電報を発し之を送る。林出来訪。中西正樹還暦予祝会より井手，白岩，

田鍋，三谷，三澤，郡島，角田，堺，中川，岡田列連名の信片，並に熊本松倉，右田，福岡松永安左衛門等の信片至る。

十二月一日　陰。朝水野を訪ふ。午前犬を伴ひ兵頭の処に至り，晌午帰る。村上貞吉夫妻来訪。午後歯の治療を受け，白木少佐を訪ひ帰る。

十二月二日　陰。井手三郎，清子の信至る。午前成田錬之助を豊陽館に訪ふ，不在。弓術を修め，波多を一訪して帰る。午後海軍白根副官の信至る。一，二，三ヶ月分手当と機密費三百円送り来る。六時三井團琢磨，米山梅吉の招宴に倶楽部に列席す。来賓二百余人，九時散ず。

十二月三日　微雨。午前兵頭医の処に至り，帰りて篠嵜医院に至り口中の症を治し，弓術を修て帰る。

十二月四日　陰。午前歯の治療を為し，弓術を修め，上海日報に小談。午後波多，西本来訪。北京山内嵓，漢口岡に病気見舞状を発す。山成，西山来訪。夜姚文藻，土屋計左右来訪。

十二月五日　陰。午前三井銀行佐田弘治郎の為に浦敬一を送るの旧作を揮毫す。漢口山岡少将に致書す。

十二月六日　陰。海軍に発信す。田鍋に中西還暦祝賀寄附十円，猿野，辛島格氏紀念碑寄附金二円半，東洋協会に十月迄の会費を郵送す。篠嵜に至り咽喉を療し，弓術を修て帰る。木下温知来訪。家鴨一隻，蟹一簍を贈る。六時東亜興業会社長荒井賢太郎の招宴に倶楽部に出席す。日支両国の来賓七十余人，八時半散ず。篠嵜を訪ひ小談，帰。

十二月七日　陰。午前犬を伴ひ兵頭を訪ふ。帰途波多に小談。午後姚氏来訪，出て成田を豊陽館に訪ひ，弓術を修て帰る。九時八角中佐を車站に迎ふ。北京公使館附に転任する者なり。狄楚青に致書す。

十二月八日　雨。日曜日。午前犬を伴ひ兵頭の処に至り，去て山成を訪ふ。午後八角中佐，白木少佐，成田錬之助来訪。田中清司の信至。夜微熱。

十二月九日　陰。午前八角中佐を豊陽館に訪ひ，去て有吉，林出を敲き，篠嵜医院に至り受診して帰る。夜来風邪の気味有り発熱。木下温知二女死去の訃至る。弔詞を発す。午後静養。丈夫入営前後の書信二通至る。西本省三来訪。英京上妻博路の信片至。狄南士来訪。

十二月十日　雨。西本省三，西山武人来訪。森山中将の信至る。蝦名徳弥，木下正明を伴ひ来訪。晩佐々布来訪，留て晩食す。

十二月十一日　雨。午前白木，成田を訪ふ。陽明全集を漢口山岡司令官に送る。午後村上，菊池両律士を訪ひ，時報の件に就き商量す。狄南士に致書す。内人の信，並に飯塚卯三郎，村地文治郎の信至る。波多，中川義弥来訪。

十二月十二日　新晴。波多，榊，西山来訪。内人，丈夫，田中，松倉に復書す。別に井手三郎に致書。中川を訪ふ。晩波多宅の招邀に赴く。八時半帰。井手友来訪。

十二月十三日　雨。白木少佐，磯谷大尉，余洵，篠嵜来訪。晩三井林徳太郎の招宴に月廼家花園に赴く。笹川潔，平田久，佐原，横竹同座たり。十時散ず。

十二月十四日　晴。報告を作る。山田謙吉来訪。午後理髪。成田，笹川を訪ふ。有薗の信至。

十二月十五日　晴。日曜。前八時北郊に猟し正午帰。菊池少佐，石井則之前後来訪。谷口源吾菓子を携て来訪。晩藪田信吉来訪。八時津田静枝を迎ふ，船入港せず。成田の処に小談，帰る。雨。

十二月十六日　雨。午前永野八郎来訪。豊陽館に津田少佐を訪ふ。隅田艦長として着任せる者也。海軍に報告を発す。井手三郎の信至る。午後津田，菊池両少佐，並に春申社川端某来訪。夜磯谷大尉を隣室に訪ふ。

十二月十七日　雨。成田錬之助来訪，留て中食す。午後波多，西山来訪。豊陽館に菊池少佐豊吉を訪ひ行を送る。今夕上船帰国するを以てなり。五時半春申社の同文書院修学旅行学生慰労会に小有天に出席，八時帰る。林出来談。

十二月十八日　雨。午前白洲十平，川端建羊来訪。午後山口啓三を訪ふ，不在，木下温知宅に至り其女を唁し，村上夫人と小叙。郵便局に至り内人に金六百円を滙送し，豊陽館に成田を訪て帰る。井手の

電報至る。内人の信に接す。之に復す。

十二月十九日　雨。三井林支店長より丈夫急性肺炎にて衛成病院に入り重態の電報を送り来る。午前有吉，林出，三井，波多，白木を歴訪。午後佐々布，井手友,，波多，平川，山田，西山来訪。時報館に狄を訪ふ。山岡司令官，伊集院大佐に帰国の事を報ず。

十二月二十日　陰。午前林出，有吉，岸，井手，島田，篠嵜，兵頭，岩崎等を訪ひ辞行。島田，不破孝太郎来訪。午後十二月分を領事館より受取る。時報十二月迄の分を送来。平岡小太郎来訪。漢口山岡司令官の信至る。余殼民来訪，紅緑茶各一盒，棗二，葡萄酒二瓶を贈る。磯谷大尉，津田少佐，坂田長平，大島新，友野盛，佐々布前後来訪，佐々布を留て晩食す。明日の伏見丸にて帰国に決し行李を整頓して夜半に至る。

十二月二十一日　雨。西本，上塚司，西山，波多来訪。島田，山成，白木少佐，並に波多夫人来訪，蜜柑一籠を贈らる。内人の信至る。三時旅館を出で税関埠頭に至り伏見丸行の汽艇に乗ず。白木少佐，磯谷大尉，波多，平野，島田，井手，篠嵜，佐々布，村上，山田謙，平川，若杉，林出，山口啓，山成，平野，西山，政木，不破，並木，辻等来送。六時半呉淞に達し伏見丸に上る。風雨猛烈，向邇す可からず。辛ふして上船を得，衣帽尽濡二百六号室に入る。鵜沢，岡某同室たり。八時開船。小田切，林徳太郎同船たり。

十二月二十二日　雨，風濤頗険。終日静臥。

十二月二十三日　雨。午前十一時長崎に入る。土佐屋に投ぜしは午後二時なり。食後理髪，上海波多，山口啓三に致書す。長崎新聞社員某来訪。十時半土佐屋を出で，十一時半の汽車に乗じ寝台に就く。林，鷹見等同車たり。

十二月二十四日　晴天。午前七時二十分門司着。下関に渡り九時五十分の急行車に乗ず。林徳太郎，呉大五郎等同車たり。東京宅に明日着の事を打電す。

十二月二十五日　快晴。前五時起床。午前御殿場を過ぐ。富士の晴雪天半に映じ岳麓一帯積雪皚々，甚だ壮観たり。午後一時五十分東京着，内田友義，西田，田辺豊雄，山本増雄等来迎。三井の自動車にて麻布の寓に帰り，内人と小談。出て衛戍病院に丈夫の病を看る。清子，西田，田辺，内田等看護，病状甚重意識明亮ならず。極て危む可き者有り。夜に入て帰る。雪。

十二月二十六日　大雪。午前病院に丈夫を見る。意識昨に比すれば頗る明。病院長を訪ひ謝辞を述べ，午後三時内人と交代し，去て海軍軍令部に到り有馬次長，吉田少将，白根副官，鈴木大佐，田中少将，八角，中島，井手，大中，杉坂，藤吉等の知人と小談，四時帰寓。

十二月二十七日　晴。上海有吉，白木，磯谷，波多，東和洋行に致書す。午後病院に丈夫の病を看，晩帰る。鳥居素川来訪。

十二月二十八日　晴。細川侯邸，蓑田，片山に致書。横須賀鎮守府名和大将に筍を郵送す。午後内田，亀雄，西田元太郎来訪，出て八角三郎，吉田増次郎，藤瀬，山本増雄宅を歴訪す。是日始て丈夫の病状危険界を脱す。

十二月二十九日　快晴。北京伊集院大佐の信至る。上海佐々布，大坂鳥居に致書。西田元太郎の本渓湖行に托し阿南鎮民に紹介状を与ふ。午後内人と病院に至り，夜に入て帰る。波多重雄の信至。

十二月三十日　晴。午前理髪。午後病院に至り，七時帰る。

十二月三十一日　快晴。午後病院に至り丈夫の病を見る。昨日に比すれば著しく軽快に赴ける者の如し。午後帰る。八角三郎の信片至る。安河内弘来訪。夜病院に至り，十時半帰。

3. 大正 8 年 1 月から 12 月までの日記

前年 12 月に婿養子の丈夫が肺炎で急きょ入院したのを心配して帰国して以来，丈夫の回復を見守り

つつ日本に留まっていたが，容態が安定して4月に上海に戻った（丈夫はその後退院し，兵役を免除された)。その間に起こったこととしては，陸軍大将福島安正の死がある。宗方が福島の私邸を訪ねて語らったのは4日前のこととて，彼の「音容歴々尚耳目に存す」として悼んでいる（2月19日)。また，東京にいる間に蓄膿の洗浄，足の出来物の治療，歯の治療のためそれぞれの専門医に診てもらっている。この機会に気になる体の不具合を直しておこうということか。そろそろ上海に戻ろうとする4月8日に海軍司令部を訪ねた際には，4月から3か月分の手当て9百円の他にさらに特別機密費として2百円を受け取っている。これまでにも何度か支給されてきたが，どんなタイミングで特別機密費が支給されてきたかは，さかのぼって確認する必要を感じる。そして，同日夜には司令部副官から「本月より起て毎月手当七十円増額の通知」があったとする。こうして，宗方への海軍の手当ては月々370円となった。

4月15日に上海に戻ると，まもなく情報の収集と報告執筆を再開した。前年の場合はもっぱら段祺瑞政府と民党の対立や軍閥間の抗争についての報告だったが，今回はそれに加えて，いわゆる青島問題を巡って中国各地に排日運動が起ったことが報告の対象になった。第一次大戦が勃発した機会に，日本は1914年に軍を出動させて山東省の利権を握っていたドイツを追い出してその利権を奪い，翌年二十一か条要求を袁世凱政府に突きつけてそれを追認させたが，この年（1919年）のパリ講和会議においても各国が日本の山東処理を問題にせず，かつその会議に参加した中国代表団がなす術がなかったことに北京の学生が抗議行動を起こしたいわゆる五四運動は，瞬く間に中国各地に拡大したのである。そこでこの運動に関する宗方の海軍への報告は，4月25日の第510号「排日運動の趨勢」に始まり，中国国内の政治状況の報告と交互して12月まで書かれていて，中国のこの運動をとても重視していたことが知れるが，日記で触れているのは，6月上旬から中旬の4回のみである。

「是夜排日運動の風潮極点に達し形勢不穏なり。是日より起り上海罷市」(5日)，「今夜市内形勢益す不穏の状有り」(6日)，「是日午後四時より租界の治安を維持する目的を以て義勇隊，消防隊全部の動員を行ひ，学生団を租界内より駆逐するに決せり」(9日）で，義勇隊などを動員して学生団を駆逐したかどうかの言及はないまま，「是日上海全市始て開市す」(13日）と続いている。

但し，宗方日記で触れた上海市内の状況はそうだったとして，他にも排日運動と関係があるものとしては，12月15日の日記に，松岡洋右が福州事件の実地調査で福州に向かう途中上海に来て会ったと書いている。かつて上海領事館に勤務して宗方と交流があった松岡は，この時は外務省の派遣で，11月に福州で起こった日本人居留民と排日を叫ぶ現地の学生間の衝突事件で日本が軍艦を出動させるまでした事実関係を調査する任務を負っていたのである。この事件は，日本側の主張では学生団の排日暴動で現地に住む日本人に大いに損害を与えたことが遠因で衝突に至ったとするが，中国側の主張では日本製品不買運動を破壊するために日本側が警察や浪人を動員して学生を殴打し，多数の死傷者を出したとする事件である。

ところで，今回の排日運動に対する宗方の態度は，1915年の二十一か条要求の際に中国側が示した反応に対するのと同様，少しの同情・理解もないものであり，例えば，「青島問題にて醞釀せる排日の風潮は例に依て一種の狂態を現し，愈よ煽りて愈よ狂ひ，一犬虚に吠へて万犬声に吠へ，挙国騒然の概有り。…抑も此次排日運動の魂胆は頗る複雑にして政争と私争とに発端し，政府当局者は此の対外問題を利用して南北の統一を促さんと欲し，党人は之を藉りて政局を攪乱せんとし，親米派は此機に乗て親日派を排除せんとし」(報告第512号「日貨排斥運動」）などと述べている。只「今回の排日運動は頗る組織的に按排せられ，其実行手段の周到なる従来未有の事にして，蔓延力の迅速なる事亦た意料の外に在り。」(報告第514号「排日運動の趨勢」）と書くのは，宗方にとってそれまで感じなかった中国人のエネルギーを感じ取ったということになろうか。

この年における他の上海での動きを見る。5月16日の日記に，東亜同文書院に根津院長を訪ねたと

ころ病臥中だったので名刺を残し，「支那学生収容の為に新築中の校舎を巡視した」と書いている。翌年9月から中華学生部商務科を設けて中国人学生を収容するための準備であろう。6月11日には「時報との関係を絶ち領事館の登録を取消」した。この件は前年から検討されており，例えば12月11日には弁護士とこの件が相談されていることが知れるが，従来宗方が名義人となり日本領事館に登録していたのを取り消すことにしたのは，前掲「上海外支新聞一覧」中の時報に関するコメントでは「排日騒動に依り」とのことで，代わりにフランス領事館に登記したとする。なお同一覧によれば，申報についても，日本領事館に登記していたのを排日騒動が起こったために日本当局と合意の上フランス領事館に登録替えしたとする。時間が前後するが，9月に宮崎滔天と2度会い，また，11月に広西の陸栄廷に会いに行く壹岐少佐に鄭孝胥のことを紹介し，12月15日に「楽善堂営業停止」云々の記載があり，『亜洲日報』が12月29日に廃刊したとある点に注目しておきたい。

ここで，大正8年に海軍司令部あてに送った宗方の報告の日付と号数を，前年と同じ要領で『宗方小太郎文書』中の記載と対照しつつ，日記から拾い出す。

4月22日，第509号「軍事計画」(『文書』の日付は4月21日)。4月26日，第510号「排日運動の趨勢」，上海，日付は4月25日。5月9日，第511号「青島問題と排日運動」(『文書』の日付は5月7日)。5月15日，第512号「日貨排斥運動」，第513号「和平会議の停頓と南北代表の辞職」(『文書』の日付は5月14日)。5月20日，第514号「排日運動の趨勢」(『文書』の日付は5月19日)。5月29日，第515号「和平会議決裂後の形勢」(『文書』の日付は5月28日)。5月30日，第516号「旧国会議員の外交に関する通電」，第517号「段祺瑞の外交に関する通電」(『文書』の日付は5月29日)。6月4日，第518号「時事雑観」。6月14日，第519号「排日運動の近況」(『文書』の日付は6月12日)。6月26日，第520号「排日運動の趨勢」，第521号「内閣問題と和平会議」(『文書』の日付は6月24日)。6月27日，第522号「新国会解散建議に対する憶測」。7月14日，第523号「政局の混乱」(『文書』の日付は7月12日)。7月29日，第525号「政局の停頓」，第526号「排日運動の近況」。8月1日，第527号「時事雑俎」。8月20日，第528号「平和会議と西南の危機」(『文書』の日付は8月19日)。9月6日，第529号「排日運動に対する所感」，上海，日付は9月5日。9月11日，第530号「和平会議の難産」(『文書』の日付は9月10日)。9月19日，第531号「南方の王揖唐排斥」(『文書』の日付は9月18日)。9月26日，第532号「王揖唐排斥運動」(『文書』の日付は9月25日)。10月11日，第533号「時局解決の困難」(『文書』の日付は10月9日)。10月16日，第534号「南北統一上の障碍」(『文書』の日付は10月15日)。11月4日，第535号「北方の結束と西南の内訌」(『文書』の日付は11月3日)。11月13日，第536号「政局概観」，第537号「裁兵問題」(『文書』の日付は11月11日)。11月25日，第538号「政局概観」。11月27日，第539号「支那人心の悪化」，上海，日付は11月25日，第540号「排日三題」(『文書』の日付は11月15日)。12月2日，第541号「福州事件と排日熱の再燃」，第542号「烟台海軍学生の自由退学」。12月5日，第543号「学生団の排日運動」。12月21日，第544号「排日運動に対する所感」，第545号「排日学生団の狂態」，第546号「南北議和の件」(『文書』の日付は12月19日)。

大正八年巳未正月

正月元日　陰。朝元旦の儀式を了し，晌午より衛戍病院に至り丈夫の病を看，四時帰る。夜に入て風雨暴烈。八角三郎より盛岡の名菓を送り来る。
正月二日　陰。上海波多の信至る。終日在家，内外知人の年賀に答ふ。清子昨夜来発病。
正月三日　快晴。田辺寛忠に致書。内外知人の年賀状に答ふ。午後沼川墾助来訪。終日在家。

正月四日　快晴。終日在家。
正月五日　快晴。午前病院に至り丈夫の病を看，正午帰る。市原源二郎来訪。午前田鍋安之助来訪せりと云ふ。
正月六日　晴。午前病院に至り，午後帰る。
正月七日　晴，寒甚。午前丈夫の病を看，午後帰る。加藤壮太郎来訪。
正月八日　晴。軍令部中島，八角両中佐に致書。午後病院に至る。
正月九日　雨。午前病院に至り午後帰。平川清風の信至。
正月十日　雨。波多の信片を発す。山内嵓の四女死去の訃至。午後理髪。田鍋安之助，平川清風に致書。
正月十一日　雨。山内嵓に弔詞を発す。上海根津，大島両氏に致書。午後丈夫の病を看る。
正月十二日　陰。福島安正，名和又八郎両大将に致書す。名和大将の信至る。伊東米治郎，田辺寛忠，同豊雄，田中，河口，菅村，古閑に致書す。西本，波多の信至。池部，小山禄仁来訪。島田，大島新，友野盛の信至る。井戸川，阿南，岡幸七郎の信に接す。
正月十三日　晴。柘植卯三郎に致書す。内田康哉，蓑田喜太郎，波多重雄，猿渡末熊，波多博に致書す。午後病院に至り晩帰る。田鍋の信至る。田鍋来訪。晩雨。
正月十四日　陰。午前病院に至る。午後鳥居素川来訪，本日入京せりと云ふ。井手友，平川の信至る。
正月十五日　陰寒。井手，平川，河口介男に致書す。荒賀来訪，留て中食す。
正月十六日　晴。水野金次郎に麦萌注文状を発す。
正月十七日　晴。午前古川権九郎来訪。午後丈夫の病を見る。本日始て病症軽快の通報有り，第六番病舎に移さる。夜に入て帰る。福島大将，名和大将の信至る。
正月十八日　陰。白岩龍平，田中清司の信至る。阿南，西田元太郎，田邊寛忠，同豊雄に病状軽快の報を発す。熊谷直亮の信至る。午後西田，玉野両夫人来訪。三時麹町一番丁の愛知歯科医院に至る。人多くして受診する能はず。衛戍病院に丈夫の病を看，九時帰。蓑田喜太郎の信至。
正月十九日　雨。終日在家。
正月二十日　陰。午前芝園橋太田医院に至り眼の診察を受く。晡時病院に丈夫の病を見る。大島新の書信に接す。
正月二十一日　晴，寒甚。土屋員安，中島晋の信至る。
正月二十二日　晴。理髪。大西齋，田辺豊雄の信至。
正月二十三日　晴。大島新の信至る。上海波多に致書す。
正月二十四日　晴。午前八角中佐来訪，本日出発支那公使館附として赴任すと云ふ。古城，古川，鳥居，井手に信片を発す。午後四時東京駅に至り八角中佐の北京行を送る。伊集院大将，島村軍令部長佐藤中将以下諸知人と小叙。去て衛戍病院に丈夫の病を看，夜に入て帰る。
正月二十五日　雨雪粉飛。井手三郎，波多博，西本等の信至。
正月二十六日　晴。上海波多に復書，西本に信片を発す。三井山本増雄に致書す。古城貞吉，田辺寛忠の信至。
正月二十七日　陰。午前佐々木旅館に井手，鳥居を訪ふ。國分青厓，古城，速水，岡幸七郎来会。鳥居の処に中食し，四時帰。岡幸七郎来訪せりと云ふ。井手に信片を発す。
正月二十八日　陰。終日在家。
正月二十九日　半晴。午後目黒，宮川義孝，藤瀬政次郎，吉田増次郎を訪ふ，皆不在。歩して帰る。
正月三十日　大雪粉飛，一望皚々。上海白木少佐，山田謙吉の信，並に大島夫人の信至る。之に復す。午後雪を芝公園に賞す。玉樹瓊林風致如画，有詩。
　漠々彤雲圧太虚，柴門深閉芝山居，夜来堆雪満城白，玉樹瓊林画不如。
正月三十一日　陰。午前飯倉中堰〔？〕歯科医に至り歯を治療す。晌午岡幸七郎来訪，留て中食す。

二月一日　陰。朝歯の治療に赴く。午前内人と衛戍病院に丈夫の病を看，正午帰。
二月二日　晴。午前歯の治療を受く。夜大雪。
二月三日　雪。午前歯の治療を受く。上海有吉，白木に致書す。
二月四日　半晴。午前歯科医に至る。午後理髪。高妻医士の処に赴き鼻の診察を受く。
二月五日　晴。午前衛戍病院に秋山院長を訪ひ小談，丈夫の病を看て帰る。帰途歯の治療を受く。午後根津一氏を同文会に訪ひ暢談。森茂に邂逅す。昨日帰来せりと云ふ。八角中佐北京よりの信至る。河口由次に信片を発す。
二月六日　半晴。歯科医に至り，帰途高妻医院に赴き鼻の治療を受く。
二月七日　陰。午前高妻医院に至り，午後丈夫の病を看る。渋谷作助来訪。
二月八日　雪。岡幸七郎，加藤壮太郎に致書。午前歯の治療を受く。
二月九日　晴。午前歯科医に到る。午後内人と谷町に内田友義を訪ふ。
二月十日　晴。岡幸七郎の信至。本日出京，帰京を報ず。佃信夫に致書，其次女を唁す。
二月十一日　半晴。午前歯の治療を受く。川口市之助来訪，土誼を贈る。別に北京橘三郎所贈の蜜棗二箱を持参す。橘に礼状を発す。長崎岡幸七郎に発信す。午後井手三郎，池部来訪。
二月十二日　晴。歯の治療を為す。上海波多の信至。正月分二百員を送り来る。波多に復書す。
二月十三日　半晴。午前衛戍病院に至る。丈夫明日より熱海に転地の事に決定せしを以て同行監督者西大尉，山西中尉に面し出発時間等を定め，五時帰る。夜雨，微恙。
二月十四日　雨。前八時四十分東京駅に至り丈夫の熱海行を送り，帰途軍令部に吉田少将，白根副官，大中，藤吉等の知人を訪ひ，去て外務省に赴き幣原，芳沢，小村，内田四人に名刺を留て帰る。中島中佐，大中少佐に致書す。
二月十五日　晴。朝歯科医に至る。午後目白に福島大将を訪ひ暢叙，去て細川侯爵を伺候し小談，辞して古城貞吉，荒賀直順，熊谷直亮を歴訪し，夜に入て帰る。亀雄来訪。田中清司，河口介男の信至。
二月十六日　半晴。大島新，平岡小太郎，西本省三，大中熊雄の信至る。山本増雄，鈴木乙兎大佐に致書す。平岡小太郎，藤村義朗，河口介男，田中清司に致書。午後渋谷作助来訪。三時理髪。五時より安達謙蔵米漫游の送別会に築地精養軒に出席す。清浦，藤村，鋳方，筑紫，古川，守田，山田珠一以下多数の知人と晤するを得たり。九時帰。
二月十七日　快晴。田辺寛忠，同豊雄，丈夫熱海転地の事を報ず。昨日午後上海帰来の磯谷大尉廉介，並に賀来敏夫来訪。午前梅を芝公園に観る，未早し。午後内人と衛戍病院に橋本軍医正を訪ひ致謝，秋山院長，奥田，柏木，大石の諸医官に名刺を留め，帰途小橋一太，西田敬止，臼田医士を訪て帰る。西田敬止来訪。丈夫の信片至る。之に復す。
二月十八日　風雨。午前歯科医に抵る。西本省三，山本増雄の信，並に週刊上海六周年紀念号を送り来る。西本省三に復書す。平岡に信片を発す。
二月十九日　晴。午後白岩龍平来訪。五時半藤村義朗の招宴に築地の山口に赴く。同座は細川侯爵，清浦子爵，安場男，井上匡四郎，安達謙蔵，山田珠一，北里柴三郎，野田亀喜，原田十衛等の諸氏なり。九時散ず。是日福島安正氏の薨去を報ず。余同大将を目白の邸に訪ひしは三日前に在り，音容歴々尚耳目に存す。而して一朝忽然として迷明を隔つ。真に痛む可きなり。
二月二十日　晴，風大。熱海療養中の丈夫に致書す。午後歯の治療を受く。三田秋元商店に至り眼鏡を注文す。
二月二十一日　雨意。午後中島晋，高島義恭を青山に訪ひ，帰途同文会に根津一，寺中猪介を訪ひ，去て三年町に市原源次郎を訪ふ，不在，四時帰る。岡幸七郎，鈴木大佐，丈夫の信至る。上海大島新に致書す。雨。
二月二十二日　雨。午前歯の治療を完了す。費五十五員半。午後中島中佐来訪。田辺豊雄に信片を発す。

二月二十三日　微雨，午後晴。川口市之助来訪。二時福島大将の葬儀に青山斎場に列す。四時終。中島眞雄，井手，上野岩，井上雅二列に邂逅す。熱海衛戍病院長齋藤干城に致書す。
二月二十四日　晴。午前歯科医に至り治療費を支払ふ。午後亀井宅を訪ひ，故英三郎七週年の奠儀一封を贈り，去て牛込喜久井町に田鍋安之助の病を問ひ，転じて大久保に至り内田康哉の病を問ひ，帰途神田佐々木旅館，井手，鳥居，山田等を訪ふ。古城，辻高衡等在座。五時帰。夜雨。
二月二十五日　朝陰，午晴。安河内弘に致書す。
二月二十六日　晴。高見安次より其先人の遺稿かたみの若草一冊を送り来る。之に礼状を発す。是日東洋協会に退会届を出す。午前理髪。午後五時築地精養軒に亀井英三郎の七年祭に列す。会する者二十余人。八時半散ず。齋藤軍医の信至る。
二月二十七日　晴。前九時安達謙蔵の欧米漫游を東京駅に送り，帰途大谷藤次郎，荻野元太郎に名刺を留む。広東八田厚志の信至る。
二月二十八日　晴。是日先考の忌辰たり，供物致祭。米国紐育高島醇に復書す。
三月一日　快晴。午前二本榎に藤本医士を訪ふ。正午荒賀直順来，共に出て代々木に至り宮島大八を訪ひ立談，去て大久保百人町に古川権九郎を訪ひ寛談，五時三人相伴四谷塩町に至り分袂，六時寓に帰る。
三月二日　陰寒。松倉，右田の信片至，之に復す。水野金次郎に麦萌注文状を発す。午後小石川丸山町に亀雄，並に加藤壮太郎を訪ふ，不在。
三月三日　晴，風塵大起。
三月四日　晴。仙台大火の報に接し，武藤虎太に見舞状を発す。午後赤十字病院に院長平井博士を訪ひ丈夫病中の斡旋を謝し，去て赤阪新坂町大谷周庵博士を訪ひ同上致謝，台町に成田，橘の留守宅を訪ひ，去て信濃町に至り市外電車に乗じ，東中野に至り藤村義朗を訪ふ，不在。四時半帰。
三月五日　晴。終日在宅。
三月六日　半晴。午後家族同伴三越に至り買物を為し，五時帰る。夜に入て雨。
三月七日　新晴如拭。井手，古城の信至る。之に復し大西齋に信片を致す。午後理髪。
三月八日　雨意。正午新富町の竹葉に井手の午餐に赴く。伊東米次郎，白岩，荻野，阿多，大谷是空同座たり。鰻飯の饗有り。三時帰。雨。
三月九日　雨。迎英輔，古賀末蔵の信に接す。之に復す。午後高妻歯士に抵り鼻の診察を受く。四時家族と芝公園に梅花を賞す。紅白妍を競ひ香気衣に董ず。茶亭に小憩汁子を喫して帰る。
三月十日　陰晴無定。午前鼻を療す。上海波多に致書す。波多の信至，二月分二百員を送り来る。夜雨。
三月十一日　陰寒。波多，河口由次に復書す。鼻の治療を為す。夜田代明人来訪。夜雨。
三月十二日　陰。午前高妻医士の処に至り鼻茸の切解を行ふ。晌午帰宅。出血多量，就床静養。心気不佳。
三月十三日　陰。高妻医士に抵る。午前加藤大佐来訪。
三月十四日　晴。高妻に抵り受診。
三月十五日　雨。高妻に抵り受診。宮島，田鍋に信片を発す。
三月十六日　晴。午前高妻医士の診を受く。午後川口市之助，賀来敏夫，山本増雄前後来訪。上海岩嵜栄蔵の信，並に田鍋安之助の信に接す。岩嵜に返信を発す。
三月十七日　晴。高妻に抵り受診。
三月十八日　晴。高妻に抵り受診。午後発熱三十八度三分，就床静養。安河内来訪，不会。
三月十九日　晴。午前上妻に至り，帰宅後上野外科医院に至り左腿の腫物の受診を受く。夜に入て大風，屋を動す。発熱八度四分。雨。
三月二十日　晴。午前上妻に至り受診。午後上野医院に至り左脚を治療す。熱三十七度二三分，夜に入

て下降，平常に復す。

三月二十一日　晴。午前上妻，上野両医院に至り受診。熱七度二三分。

三月二十二日　晴。午前両医院に至り受診。白木少佐，磯谷大尉に致書す。大島新，河口由次に信片を発す。

三月二十三日　晴。高妻，上野両医院に至り受診。中島中佐，並に東和洋行辻源助に致書す。広東八田厚志，熊本井手三郎に致書す。河口介男より鮮香菇一箕を贈り来る。夜微雨。左脚の腫疼痛を覚ふ。岡幸七郎の信至。

三月二十四日　微雨。午前上野医院に至り受診。漢口岡に復書す。午後高妻医士に抵り鼻側の蓄脳を洗滌す。

三月二十五日　晴。午前上野医院に，午後高妻医院に至り受診。是日丈夫病癒て熱海より第一衛戍病院に帰還の報有り。

三月二十六日　晴。上野，高妻両医院に至る。風大にして春寒刺肌。是日丈夫近衛三聯隊に復帰す。

三月二十七日　陰寒。午前理髪，上野病院に至り受診。上海波多博，朝鮮井戸川辰三に致書す。夜雨。

三月二十八日　雨。午前高妻，上野両医院に至り受診。

三月二十九日　晴。午前海軍に吉田少将，白根，鈴木両大佐，中島中佐を訪ひ少談。十一時伊集院大佐の北京より帰来せるを聴き，之を神谷町一八中山宅に訪ひ，午を過て帰る。午後丈夫を近衛三聯隊に訪ふ，不在。井手，古川より守田愿還暦の祝筵を明日開催の事を報じ来りしも，観能の先約有り之を辞す。

三月三十日　陰。日曜日。午前丈夫帰宅，罹病後之を初とす。川口市之助，西田夫人来訪。中食後内人と喜多舞台に至り観能。国栖，熊野，正尊の三番と仕舞，独吟，狂言等の催有り。七時散。飯田町の飯荘に投じ晩食して帰る。

三月三十一日　半晴。午前高妻医士の処に至る。丈夫帰宅。三人同伴芝公園三縁亭に至り午餐，三時帰。河口由次，齋藤雅方来訪，河口同文書院入学の保証を為す。

四月一日　晴。午前歯科医に至り歯を治療す。午後長崎川村景敏，上海波多，東和洋行に東京出発の日期を報ず。

四月二日　晴。午前高妻医院に到り受診。三時内人と電車にて外堀の花を看，飯田橋にて下車歩して九段靖国神社の桜を賞す。爛漫如雪，甚為美観。五時帰宅。田鍋安之助来訪せりと云ふ。夜微雨。

四月三日　陰。神武天皇祭。朝鮮井戸川辰三の信至る。丈夫帰宅。

四月四日　晴。午前床次内相の官舎に至り夫人を唁し，去て第一衛戍病院に秋山院長を訪ひ告別。帰途参謀本部に磯谷大尉を訪ひ小談，帰。是日霞関一帯桜花盛開。宮島大八，白根副官に致書す。午後微雨。

四月五日　午前晴，午後雨。田鍋より明日太古会を鴻台に開くの通知至る。事故を以て辞す。午前理髪。午後内人，清子と花を麻布の高台に看る。

四月六日　陰。上海波多の信至る。晌午内人，丈夫，清子を伴ひ花を上野に賞し，精養軒に中食す。是日桜花満開，遊人雑還如織。四時帰る。田鍋の紹介にて大尉中島知能及小西伊十両人来訪せりと云ふ。磯谷大尉廉介の信至。

四月七日　陰。午前熊本人陸軍大尉中島知能，大村人小西伊十来訪。午後衛戍病〔院〕に橋本軍医正を訪ふ，不在。外務省に内田外相を訪ひ小叙。去て虎ノ門女学館に西田敬止を訪ふ，不在。溜池同文会に田鍋安之助を訪ふ。中外商業新報記者松田禎輔，山田純坐に在り，暢談晡に及で帰る。是日長崎行汽車切符，寝台券等を購ふ。

四月八日　晴，暖気如首夏。午前東京駅に至り急行券を購ひ，去て海軍々令部に有馬次長，吉田少将，白根副官，副官少佐洪泰夫，中島中佐，藤吉少佐晙に面し暢談，副官より四，五，六月分手当九百

円，並に特別機密費二百円を領収し，去て白岩を平河町に訪ふ，上月青山に転居せりと云ふ。近衛三聯隊に至り，第十中隊長田村龍彌，並に同中隊第一班長竹之内泰次を訪ふ，不在。丈夫を休養室に訪ひ暢談，去て赤阪見附より上車三井物産に藤瀬，小田柿，赤羽を訪ひ名刺を留め，山本増雄，井野春韶に面し小談。転じて白金に藤瀬宅を訪ひ，帰途臼井医士に名刺を留て帰る。大島新，鳥居赫雄来訪せりと云ふ。伯爵津軽英麿氏の訃至る。海軍々令部次長有馬良，橘中将の案内状，並に岡幸七郎の信至る。大島新，井手三郎，鳥居素川に致書。朝鮮井戸川辰三に致書。夜軍令部副官より本月より起て毎月手当七十円増額の通知に接す。

四月九日　晴。午前内田友義宅に至り告別，紙類を購て帰る。加藤，荒賀，川口，磯谷，亀雄，田辺寛忠，同豊雄，古閑，河口，田中，菅村に出発を報ず。大阪鳥居の信至る。之に復す。土屋，佐野，大西に出発の事を報ず。午後三田銀行に至り，帰途雑品を求む。六時京橋采女町瓊之家に至り，海軍々令部次長有馬中将の招宴に列す。余を主賓とし，安保，吉田両少将，白根，伊集院，鈴木三大佐，中島，梅田，洪，藤吉以下の佐官数名同坐たり。九時半辞帰。

四月十日　陰。早朝井手三郎来訪。午前軍令部に至り次長，海軍次官，吉田少将，鈴木，白根，中島，井出，藤吉，梅田等の知人に告別し，手当増額を副官より受取り，外務省に芳澤政務局長を訪ふて帰る。途上江崎眞澄，西田敬止に邂逅す。橋本軍医正，田村大尉に致書す。明朝出発支那に向はんとす。行李を整頓す。伊集院大佐来訪。名和大将に致書。夜内田友義，弟亀雄来訪。小西伊十の電至る。夜に入て雨。家族と閑談，十一時就寝。

四月十一日　晴。前七時二十五分家を辞し支那行の程に上る。東京駅に至り八時半の特急車に乗ず。鈴木乙兎大佐，中島，梅田両中佐，磯谷大尉廉介，井手三郎，宮島大八，亀雄来送。午時を過ぎ名古屋に至る。土屋員安来迎立談，片刻にして握別す。小西伊十に返電を発す。夜大坂を過ぐ。大西齋来迎。神戸を過て寝台に入る。

四月十二日　晴。前五時起床。佃正四郎に邂逅す。漢口にての知人也。九時半下関着，直に門司に度り十時四五分の長崎行に乗ず。佃同車たり。鳥栖にて小早川，松倉に信片を発す。五時十分長崎着，土佐屋に投宿す。夜理髪。東京宅に致書す。

四月十三日　陰。小西伊十，中島知能の信片至る。小西に返書す。午前小西伊十来訪。午後長崎日々新聞社村上千代治来訪。三時半土佐屋を辞し春日丸に上る。江口良吉，川村郵船支店長来送。佃正四郎，遠藤眞一，橋本万之助等同船たり。第八号船室を独占す。夜船長五野経三と談ず。熊本菊池の人なり。

四月十四日　陰，霧深し。海上平穏。漢口岡幸七郎，丈夫に致すの信片を作る。北京八角，杉坂両武官に致書す。

四月十五日　晴天。午前七時半上海滙山碼頭着，波多，井手，西山，平野来迎。波多，平野同車東和洋行に入る。波多と朝食を共にす。井手友，島田，白木少佐，西本，平川，山成，山田謙，平野，佐々布，波多夫人，吉永勘治来訪。午後領事館，上海日報社，白木，篠崎を訪て帰る。林出，實相寺，篠嵜，友野前後来訪。

四月十六日　陰寒。午前波多に抵り，去て郵便局，領事〔館〕より有吉領事を西茂路に訪ひ，晌午帰。午後波多博，副島綱雄来訪。夜余洵来訪。

四月十七日　晴。八時實相寺貞彦の北行を車站に送る。山岡少将，鈴木，白根両大佐，中島，梅田の諸氏，並に東京宅に発信す。午前村上貞吉宅，平川，佐々布，山成，西本を訪ふ，皆不在。午後波多，薛来訪。海軍々令部次長有馬中将に致書す。長沙香月梅外の病を問ふ。波多来訪。

四月十八日　晴。井手，宮島，磯谷廉介に致書す。午前山成，山田謙，石橋藤次郎，西山来訪。午後姚文藻を訪ふ。平田久に致書。

四月十九日　晴。小西伊十，江口良吉に信片を発す。中西正樹に致書。南京山岡遣支艦隊司令官の信

至。午後西本，渡辺，井手，山田純三郎兄弟来訪。須田信次の案内状至る。波多来訪。夜島田来談，夜更に及で去る。

四月二十日　陰，風強。午後亜洲報館に山田，井手，不破，薛を訪ふ。東京伊集院俊に致書す。午後波多，太田宇之助，結城廉造来訪。漢口津田少佐の信至る。之に復す。有薗善行の信至る。之に復す。

四月二十一日　雨。

四月二十二日　陰。午前結城来訪，平岡龍城著故事読本一部を贈る。菊池少佐来訪。吉田少将に致書，報告を送る。午後白木少佐，林徳太郎，波多，太田宇之助，友野，結城，菊池を歴訪す。三井林，野平の案内状至。

四月二十三日　晴。午前理髪，秋田康世を訪ふ。吉田壽三郎の信至る。午後平川，波多来訪。七時須田信次の招宴に月廼家花園に赴く。同坐十余名。九時帰る。

四月二十四日　晴。内人，清子に致書す。松倉の信片，並に東京白岩，井手，大内の信至る。波多夫人来訪，今夕上船帰国する者なり。腸詰一包東京宅に托送し，夫人〔に〕紅茶一包を餞す。午後白木少佐，林出来訪。夜波多を訪ひ其夫人の帰国を送る。

四月二十五日　晴。波多来訪。終日報告を作る。夜佐々布来談。

四月二十六日　晴。川口市之助，山田純三郎に致書す。海軍に報告を発送す。結城来訪，水滸伝一部を贈る。

四月二十七日　晴。日曜日。前八時より佐々布，山成を誘ひ江湾附近に猟す。獲る所無し。正午佐々布の処に帰り茗話，少時帰寓。岡幸七郎の信，並に三井林の案内状至。土井伊八，横竹平太郎来訪。七時半三井林徳太郎，野平道男，横竹平太郎の留別，披露の招宴に赴き，十時帰。辻眞逸来訪。井手三郎，丈夫の信至。

四月二十八日　陰。丈夫に復書す。岡幸七郎の信至る。午前同文書院に大島新を訪ひ其母堂を唁し，正午帰る。午後平川，波多，平岡，篠嵜，島田来訪。晩波多，平川と新月に至り鰻飯を吃し，九時帰る。佐原来訪せりと云ふ。

四月二十九日　雨。秋山第一衛戍病院長，大島新，留守宅に致書す。鄭垂，村上貞吉来訪。小西伊十に致書す。七時半月廼家花園に林徳太郎の留別宴に出席，十時半帰。

四月三十日　陰。午前白木，財津，有吉，林出，波多を訪ふ。午後佐々布来訪。海軍に書信を発す。北京八角中佐，並に香月梅外，大島新の信至。八角中佐に復書す。林出来訪。七時林徳太郎の送別会に六三園に出席。会する者二十余人。十時散，白木と共に帰る。

五月一日　雨天。午前九時半の汽艇にて昨日入港せる軍艦須磨に至り，山岡司令官，艦長，参謀を訪ひ中食の饗を受け，二時辞帰。磯谷大尉，丈夫の信至る。林徳太郎来訪。石井則之来訪，村山捨雄今朝死去の事を伝ふ。晩食〔後〕篠嵜に至り山村を唁す。磯谷廉介に復書す。

五月二日　晴天。午前波多を訪，臥病。領事館に至り四月分津貼を受取り，井手友を訪ふ。理髪後篠嵜に至り山村の霊位に礼し奠儀五円を供へて帰る。午後山岡司令官，土屋参謀来訪。五時篠嵜医院に至り，山村捨雄の告別式に列し，六時日本墓地に会葬，七時半帰。服を改めて六三亭に赴き伊吹山の招宴に列席す。今村須磨艦長以下五六人同座，十一時帰る。吉林齋藤恒より大佐に進級の事を報じ来る。

五月三日　晴。午前九時三井林徳太郎の北京行を車站に送り，去て平岡小太郎，山成，波多を訪ひ，晌午帰る。吉林齋藤恒に復書す。山田謙吉，馬某来訪。井手三郎に致書す。午後白木，佐原，山成前後来訪。夜余穀民，吉永勘治来訪。

五月四日　晴。午前七時半山成を誘ひ北郊に猟す。無所獲，晌午帰。北京大西齋の信至る。夜波多，篠嵜を訪ふ。

五月五日　晴。午前波多来訪。生駒艦長安村介一に致書す。午後結城来訪。馬尼剌石橋藤次郎の信至る。暖気頓に加はり前日と三十度内外の差有り。山成，西本来訪。

五月六日　微雨。前八時山成，武田と電車楊樹浦に猟し鴫二羽を獲，正午帰。午後有吉，林出，白木を訪ふ。余穀民，林出，塩嵜領事官補来訪。夜今井邦三，波多博来訪。

五月七日　晴，熱。川口市之助の信至る。内人の書信に接す。夜林出，平岡を訪ふ。松倉に信片を発す。

五月八日　晴，炎熱九十度に上る。午後鄭垂，石井，山村前後来訪。川口市之助の信至。晩姚文藻，波多を訪ふ。川口市之助に復書す。

五月九日　晴。海軍に報告を発す。午後郵便局，上海日報社佐原を訪ふ。午後姚文藻，波多，保木本利治来訪。保木本乾苔一缶を贈る。山田謙来訪。夜雷雨。

五月十日　微雨。午後波多，平川，平岡来訪。河口介男の信至る。夜佐々布来訪。

五月十一日　日曜。積陰。午後白木，菊池両少佐来訪。是日出猟せしと欲せしも雨の為に中止す。七時倶楽部に於て岩嵜書記生の仏国に転任せるを餞す。関，林出，佐原，西本，平川，中世古等同座たり。十時散ず。

五月十二日　積陰。午前八時半菊池少佐〔と〕汽車江湾に至り打猟。細雨頻至，衣帽尽く湿ふ。無所獲，午後二時帰。丈夫，小西伊十，中島知能の信至。夜余洵来訪。佐原来訪。

五月十三日　陰冷。理髪，篠嵜を訪ふて帰る。波多来訪。

五月十四日　雨。終日報告を作る。午後山岡司令官，西本，余洵来訪。夜波多来談。昨日南北和平会議停頓，双方の代表皆辞職す。

五月十五日　快晴。午前山田謙吉，午後太田宇之助来訪。海軍に報告を発し，山岡少将に副本を送る。細谷利恵，平岡小太郎来訪。

五月十六日　晴。岩嵜栄蔵来別，巴里に転任する者なり。晌午岩崎を滙山碼頭筑後丸に送る。多賀大佐も本船にて帰国するを聞き一叙して帰る。午後波多来訪，共に同文書院に根津院長を訪ふ。病臥中に付き名刺を留め，大島新と暢談。支那学生収容の為に新築中の校舎を巡視し，三時山口高等商業生徒と同文書院生の柔道を観，六時半帰。余洵来訪。

五月十七日　陰。午前有吉，波多を訪ふ。山田岳陽来訪。内人に致書す。夜に入て雨。

五月十八日　陰。日曜日。前八時平岡を誘ひ北郊に猟し鴫二羽を獲，十一時帰る。午後島田数雄，王統一来訪。夜余洵，波多来訪。

五月十九日　陰。午前波多を訪ふ。午後橘三郎，結城廉造来訪，橘は昨夜北京より来着せりと云ふ。夜橘，白木を訪ふ，不在。島田に抵り小談，領事官に林出を訪ひ，十時帰る。大坂鳥居素川の信至。

五月二十日　陰。海軍に報告を発す。菊池神社へ寄附金五円，並に大正新聞社株式拾株引受証拠金五十円を百三十銀行佐野直喜に郵送す。内人に信片を発す。郵便局より白木の処に至り，四時帰る。雨。井手三郎の信至。夜佐々布，波多前後来訪。

五月二十一日　雨。島田数雄来訪。九州日々社山田珠一，小早川秀雄に通信す。

五月二十二日　快晴。九時の汽艇にて軍艦須磨に至り山岡司令官を訪ひ，十一時帰る。理髪。午後平野兄弟来訪。出て亜洲日報，平岡を訪ふ。夜林出，余洵，波多前後来訪。松永安左エ門より其著述を送来。

五月二十三日　陰。午前根津同文書院長来訪。午後平川清風，高比良勝二来訪。佐賀中島知能に致書す。夜波多の処に至り晩食し，八時半帰。

五月二十四日　晴。正午波多，平川を誘てカルトンカフエーに至り中食し，終て通信社に至り小坐，帰る。山田岳陽，結城来訪。近日風邪の気味有り，午後服薬静養す。結城廉造の為に岡幸七郎，中川義弥，香月梅外，瀬川領事，河西，成田等へ紹介状を認む。内人の歌信に接す。夜余穀民，篠嵜来訪。

五月二十五日　晴。日曜。佐原篤介の午餐に赴く。山岡司令官，白木少佐同坐たり。散後橘三郎，王統一を訪ふて帰る。友野盛，佐々布来訪。佐々布を留て晩食す。大島新の信至。大島に復し，別に内人，丈夫，清子に致書す。

五月二十六日　晴，風強。午前鄭垂来訪。中食後橘三郎，宮坂九郎，白木少佐を訪ふ。西山，結城等来訪。夜波多来訪，芝罘葡萄酒二瓶を贈る。明日海軍紀念日に付き山岡司令官より案内状至。

五月二十七日　晴。海軍に書信を発す。午前井手三郎を迎ふ。十一時の汽艇にて軍艦須磨に至り紀念日の招宴に列し，三時帰る。西本，塩嵜，林出，宮坂九郎，余洵来訪。夜島田来談。夜更雷雨。

五月二十八日　晴。午前井手三郎，美濃部泰一来訪。終日報告を作る。

五月二十九日　晴。山岡司令官に報告写を送る。丈夫に致書，写真二枚を送る。海軍に報告を発す。須田信次の信至る。井戸川辰三に朝鮮に致書す。午後白木，佐原，波多を訪ふ。

五月三十日　晴。終日報告を作る。波多，狄，井上良平来訪。領事館より本月分手当を受取。海軍に報告を発し，別に内田外務大臣に致書す。夏帽子を購ふ。夜波多来訪。

五月三十一日　晴。午前有吉，岸，波多を訪ふ。林徳太郎の信至る。山田岳陽来訪。

六月一日　雨。午後平岡小太郎，佐々布質直来訪。佐々布を留め晩食す。

六月二日　細雨迷濛。是日陰暦端午節たり。午前理髪，井手，波多を訪ふ。午後波多来訪。八時滙山碼頭に至り大島新の帰国を筑後丸に送り，九時半帰。丈夫の信に接す。

六月三日　陰。井手三郎，西本省三来訪。伊集院大佐の信至る。夜波多，余来訪。

六月四日　陰。海軍に報告を発す。白木，波多を訪，不在。午後波多来訪。内人の信至る。塩嵜領事官補，林出賢二郎来訪。樺山，伊集院両海軍大将，並に細川侯，徳川公への紹介状を作り波多博に与ふ。夜領事館に塩嵜，林出を訪ひ，十一時帰る。鳥居素川の信至る。之に復す。

六月五日　半晴。内人に復書す。午後波多，山田来訪。夜山岡司令官を豊陽館に訪ひ暢談，帰途波多に抵り，十時帰る。是夜排日運動の風潮極点に達し形勢不穏なり。是日より起り上海全部罷市。

六月六日　晴。海軍に書信を発す。八時波多の北京行を車站に送り，領事館に有吉，林出を訪ふ。午後狄平来訪。湯川夏生の信至る。今夜市内形勢益す不穏の状有り。

六月七日　晴，熱甚。午後井手と軍艦須磨に山岡司令官を訪はんとす。之に途に遇ふ。折回して豊陽館に井上雅二を訪ふ。本日来着せ〔る〕者也。夜佐々布来訪。

六月八日　晴。北京八角中佐に致書す。夜平田久来着，之を訪ふ。

六月九日　晴，熱甚。余殼民来訪。午前井手，林出，島田を訪ふ。井戸川辰三，岡幸七郎，海軍の信至る。午後有吉，林出を訪ふ。是日午後四時より租界の治安を維持する目的を以て義勇隊，消防隊全部の動員を行ひ，学生団を租界内より駆逐するに決せり。

六月十日　晴。狄来訪。午後白木，佐藤両少佐来訪。出て林出を訪ふ。波多済南よりの信至る。

六月十一日　微雨。午前林出，井手を訪ふ。是日時報との関係を絶ち領事館の登録を取消す。平川来訪。

六月十二日　半晴。理髪後林出を訪ふ。台湾増田大佐に致書す。佐々布，島田前後来訪。時報館より謝儀を送り来る。

六月十三日　陰。朝佐藤少佐を訪ひ，去て林出に抵り小談，三井に野平道男を訪ひ，去て日報社に井手友を訪ひ，共に出て宝亭に中食す。是日上海全市始て開市す。午後井手三郎，余殼民，谷口源吾，平田久来訪。夜狄平来訪。

六月十四日　雨。海軍に報告を発し，東京宅に致書す。午前領事館に有吉を訪ひ小談，去て白木少佐を訪ひ，正午帰。午後佐々布来訪。

六月十五日　雨。波多北京より信片至る。午後姚文藻来訪。丈夫衛戍病院より信至る。晩余洵来訪。

六月十六日　陰。海軍に致書。午前林出，岸，白木を訪ふ。余姓来訪。

六月十七日　半晴。午前神嵜，井手を訪ふ。八田厚志，波多博，橘三郎の信至る。八田，波多に復書し，古城貞吉に信片を発す。

六月十八日　晴。井手，山田岳陽来訪。午後林出，塩島少佐，谷口来訪。中島中佐，井上雅二，丈夫の信至る。中島，丈夫に復書す。

六月十九日　陰。前十時軍艦須磨に山岡司令官を訪ひ，十一時帰。驟雨の為に衣帽皆沾。午後山成和四夫，谷口源吾，石井則之来訪。谷口北支那旅行に付き岡幸七郎，中西正樹，野満四郎に添書を与ふ。午後井手友，白木を訪ふ。安河弘，川口市之助，橘三郎に致書す。

六月二十日　陰。大島新，河口介男，村地久治郎の信至る。三人に復書す。午後篠嵜来訪，六時篠嵜と倶楽部に至り同攻会員と共に村上唯吉より朝鮮暴動の詳情を聴き，十一時帰。平岡，副島，余洵来訪せりと云ふ。

六月二十一日　雨。内人の信至る。余洵，宮永祐雄来訪。

六月二十二日　雨。山田岳陽，神嵜正助夫婦来訪。午後高木陸郎来談。夜に入て大雨。

六月二十三日　雨。午前理髪。林出，岸を領事館に訪ふ。午後神嵜，平岡，平川を訪ふ，皆不在。平川来訪。塩島少佐，西本来訪。迎英輔の信至。

六月二十四日　雨。佐々布，鷲沢與四二来訪。鷲沢は昨夜北京より着せりと云ふ。丈夫，波多の信至る。丈夫は本月十八日現役免除の命令に接し十九日帰家の事を報じ来る。七時神嵜の送別会に出席。会者四十人，九時散。鷲沢来訪。風邪の気味有り。

六月二十五日　雨。微熱有り，心気不舒。山田岳陽，平田久来訪。十時近江丸に鷲沢，平田，森川の帰国を送り，領事館に有吉，林出を訪ひ，会計贅川の処に至り東方通信社の経費を受取て帰る。是日巴里に於ける媾和条約調印済の電報有り。波多博の信至る。午後菊池生に托し漢口，広東，済南，東京の支社へ銀八百三十五元を分送す。横竹平太郎，迎英輔に復書す。晩岡生来訪，内人の信至る。

六月二十六日　半晴。海軍に報告を発す。正午井手の主催たる山田岳陽の送別会に倶楽部に出席，三時散ず。豊陽館に塩島，白木両少佐を訪ひ，五時帰。神嵜来訪。

六月二十七日　半晴，熱甚。海軍に報告を発し，別に内人，丈夫に致書。姚文藻来訪。午後山田謙吉，篠嵜を訪ひ，六時半本多熊太郎，黒岩周六，大谷誠夫，永井柳太郎の招待会に倶楽部に出席，八時散ず。散後黒岩，大谷等の講話を聴く。諸氏は巴里媾和会議の情況視察に赴き今其帰国に在る者なり。十時帰。

六月二十八日　雨。晌午熊野丸に神嵜正助夫婦，山田謙吉，鎌田等の帰国を送る。山田に飯椀三十個を東京宅に托送す。晩熊本出身同文書院卒業生本山義人外一人の送別会に倶楽部に出席。会する者三十余名，十時半散。

六月二十九日　雨。午前九時半より馬車を賃し，同文書院に至り第十六期卒業式に列し，二時半帰。塩島少佐来訪。内人，阿南，野満の信至る。古城貞吉の書に接す。

六月三十日　雨。大正新聞社へ第一回払込二百五拾円を百三十銀行佐野直喜へ郵送す。佐野の信至る。白木少佐，並に同文書院学生田上二雄，沢井愼思来訪。午後林出，櫻木，井坂秀雄来訪，巴里に於ける講和条約二十八日に調印完了せりと云ふ。

七月一日　陰。佐々布，細谷，外一名来訪。東京波多博に致書。夜篠嵜来訪。

七月二日　雨。午前領事館を訪ふ。波多に致書す。余殼民来訪。東京大島新，安河内弘の信至。

七月三日　陰。午前林出，井手，白木を訪ふ。午後本山義人，村上義美，平川清風，井手三郎，山成和四夫，副島綱雄前後来訪。岩嵜栄蔵の信至。

七月四日　陰。有吉，林出を訪ふ。正午鳳陽丸に尾藤侍従武官を迎ふ。帰途車夫の為に懐中物を掬らる。本山義人来訪。大倉組に入社に付き大倉喜七郎，阿多廣介，川口市之助に紹介す。甲斐多聞太外一名，余殼民，太田卯之吉来訪。林出，眞島に信片を発す。

七月五日　半晴。午前森恪来訪。午後八幡丸に尾藤侍従武官，森恪を送る。河口介男，岡幸七郎の信至。姚文藻来訪。夜横山来訪。

七月六日　陰雨。午前篠嵜，井手を訪ふ，不在。午後篠嵜来訪。六時半山岡司令官の招宴に豊陽館に赴く。井手，土井，塩島同座たり。日前両陛下より恩賜の御酒の披露有り。十時半辞帰。

七月七日　雷雨。午後理髪。成松静雄夫婦来訪，長沙より帰来せる者，明朝の便船にて帰国すと云ふ。湘筆一対を贈る。海軍より七，八，九月分手当を送り来る。白根副官に領収証を発す。夜成松を隣室に訪ふ。

七月八日　半晴。留守宅に金八百員を為替にて贈る。内人に致書す。上海日報に至り小談。午後成松夫婦来る，辞行。今夕上船帰国する者也。姚文藻，塩島少佐，米田藤吉来訪。夜佐々布来訪。雨。

七月九日　大雨。青島民政部事務官三枝茂智，立花政樹，大瀧八郎の紹介にて来訪。佐賀中島知能の信至。

七月十日　雨。午前豊陽館に塩島少佐を訪ふ，不在。白木少佐の処に小談，領事館に林出を訪ひ，正午帰。土屋員安に追懐録一冊，石原醜男に滬友一冊を送る。眞島次郎に復書す。奉天菊池貞二に致書す。東京波多の電報至。

七月十一日　雨。井手，姚文藻来訪。広東八田厚志の報告至。

七月十二日　晴。午前篠嵜を訪ふ。姚文藻，副島，井手前後来訪。山田謙吉，白岩龍平，丈夫の信至る。報告を作る。井手を留て晩食を共にす。余洵来訪。

七月十三日　熱甚。井手友喜，土井伊八来訪。晩雨。七時半朝鮮銀行橋本万之助の招宴に六三園に赴く。有吉，岸，塩嵜，日下，黒葛原同坐たり。十時散ず。

七月十四日　陰。午前海軍に報告を発し，去て平岡小太郎の病を問ふ。石橋藤次郎の信至る。夜井手の晩餐に赴く。櫻木俊一，島田同坐たり。九時帰。

七月十五日　半晴。午前井手来訪，共に出て軍艦須磨に至り山岡司令官，艦長を訪ひ，正午帰。白岩，石橋，山田謙吉，八田厚志に復書す。成奈静雄の信至。波多東京よりの信二通至る。

七月十六日　晴。晩平川，太田を訪ひ，転じて佐々布に抵り，十一時帰。

七月十七日　晴。午前林出，贅原を訪ふ。大阪佐野より大正新聞株金払込の領収証至る。朝飼犬走失，夕刻帰来。佐々布来訪，留て晩食す。

七月十八日　晴。午前理髪。晩高比良，井手を訪ひ，十一時帰。

七月十九日　晴。午後篠嵜来訪。山田勝治，津田静枝の信片至。

七月二十日　晴。午後中津純人来訪。岡西門より其師楠本碩水翁の遺稿二部を送り来る。姚文藻，鄭孝胥，篠嵜を歴訪し，六時半帰。内人，田辺豊雄，岡幸七郎の信至る。岡，山田に復書す。夜井手を訪ふ。

七月二十一日　晴。白木少佐来訪。

七月二十二日　陰。午後山岡司令官，並に副官来訪，旗艦須磨明後日出港すと云ふ。井手来別，今夕上船帰国するが為なり。夜司令官を豊陽館に訪ふ。

七月二十三日　晴。前十時井手，中津を山城丸に送る。出口午後に延期す。帰途井手友喜の病を篠嵜医院に問ふ。午後林出来訪。夜平岡小太郎の病を問ふ。帰途大雷雨に遇ひ衣帽皆湿。

七月二十四日　半晴。午前細川侯爵派遣学生豊原顕義来訪。東京内人，丈夫に致書す。海軍々令部に致書。晩豊原顕義，平川清風を招き会食す。副島綱雄よりサイダー四打を贈来。

七月二十五日　半晴。領事館に至り通信社の諸経費を領収す。波多博に致書，本月分手当を送る。夜佐々布，今井来訪。

七月二十六日　半晴。井戸川，狩野，後藤茂に信片を発す。菅村夫婦の信至る。阿部野，清瀬規矩の信片に接す。阿部野に復す。菅村夫婦に復書す。河口介男に致書，長女の婚事を祝す。岡吉次郎来訪。七時佐原篤介の招宴に六三園に赴く。来客二十人，十時帰。通信社に至り社員に給料を交付して帰る。

七月二十七日　晴。西本来訪。晩今井を訪ふ，住址不明。去て井手友喜の病を篠嵜医院に問ふ。夜島田来訪。東京波多博，山田謙吉の信，並に吉田寿三郎の信片に接す。

七月二十八日　晴。晒衣を為す。今井邦三，姚文藻に致書す。晩土井伊八，佐々布を訪ひ，十一時帰。

宮永祐雄兄弟来訪，弟龍見は昨日来着せる者にて熊本菅村よりの托送品干魚，梅酒を携来。
七月二十九日　晴。平川来訪。報告を作る。宮永祐雄兄弟，菅村三之に致書す。海軍に報告を発す。姚来訪。
七月三十日　雨。午前理髪。西本を訪ひ，去て林出に抵り其厳君を唁す。午後土井伊八，木下温知，余殼民来訪。古城貞吉，本山義人，岡幸七郎の信，並に小澄正，同敏子の結婚の通知状至る。井手三郎，古城貞吉に信片を発す。
偶成
一従王業帰崩淪，大好河山委劫塵，別有隠憂人識否，白巾禍烈於紅巾。
註，学生団中為越軌之行動者皆戴白帽，結句故及。
夢烏拉之旧遊，終宵不睡
万里快車帰興濃，欧□采水思重々，推窓残月在松際，説是烏巒第一峯。
内人，丈夫，古閑信夫，土屋員安の信至。報告を作る。
七月三十一日　陰。報告を作る。吉田少将の信片至る。
八月一日　雨。平岡小太郎来訪。海軍に報告を発す。岡幸七郎，田邊寛忠，佐々木利助の信至る。豊原顕義来訪，今夕より旅程に上ると云ふ。岡，西沢，中西，鬼頭，恭親王，野満，川本等への紹介状を与ふ。田辺，佐々木に返信す。晩豊原を平川宅に訪ふ。
八月二日　風雨狂暴。奉天菊池貞二の信至。是日陰暦七月先妣の忌辰たり，時物を供へ致祭。佐々布を招き晩食す。
八月三日　半晴。午前宮永兄弟，林出来訪。木下温知より散弾百発を贈り来る。小澄正，古閑信夫に復書す。木村恒夫に信片を致す。七時台湾銀行黒葛原，柳田の招宴に倶楽部に出席，十時帰。
八月四日　半晴，熱甚。松永安左衛門に致書。川島浪速，加藤太郎，荒賀直順，迎英輔，安村大佐の信至る。之に復す。別に名和大将に致書。
八月五日　晴，熱甚。黒葛原兼温来訪，七日出発台湾銀行本店赴任すと云ふ。河口介男，金沢清一，三枝茂智，吉岡雅秀，宇治田直義等の信至。金沢，宇治田に復す。
八月六日　晴。午後姚文藻を訪ひ，土井よりの画幅代六十元を交付す。佐々布来訪。内人の信至る。余洵来訪。
八月七日　快。午前白木を訪ひ，正午大阪商船会社の湖北丸に至り黒葛原義温の台湾行を送る。午後佐藤少佐，山成前後来訪。田中清司，同悌二郎の信至。
八月八日　微雨。丈夫に致書。田中清司に復す。松倉に信片を発す。晩山成和四夫を訪ひ，十時帰。
八月九日　雨。午前有吉を訪ふ。長江虎臣に信片を発す。
八月十日　半晴。日曜。磯谷廉介，丈夫，佐藤逸人，稲生新蔵の信片に接す。佐々布来訪，留て晩食す。佐藤，稲生，磯谷に復す。
八月十一日　晴。西本来訪。池部政次の信至る。之に復す。夜佐々布を訪ひ十時帰る。吉冨直純，山内俊貞来訪。
八月十二日　半晴。海軍々令部と東京留守宅に書信を発す。狩野直喜の信片に接す。午後平川清風其姉君と共に来訪。豊原顕義の信至る。八時平川清音氏を訪ひ，十時帰。
八月十三日　陰。理髪。午後篠嵜医院に井手友の病を問ふ。七時菊池少佐の招宴に六三園に赴く。同座七八人，十時帰る。是日午後狄楚青来訪。山田謙吉，清藤，甲斐，森長次郎，藤島宇太，濱野茂，亀雄，清子の信至。
八月十四日　晴。内人，亀雄に致書す。内藤儀十郎翁危篤の報に接し見舞状を発す。外に甲斐，清藤，藤島，濱野，森に復書す。吉田少将に一書を致す。吉林齋藤大佐恒の信至る。之に復す。余洵来訪。
八月十五日　晴。細谷利恵来訪，平川清風前後来訪。

八月十六日　晴。午後林出，島田を訪ふ。松岡玄雄来訪。井手三郎，松嵜雇男熊本よりの信至。
八月十七日　午後驟雨。井手三郎，奈嵜雇男に復書す。夜平川清風を訪ふ。
八月十八日　晴。波多博の信至る。之に復す。夜佐々布，余洵来訪。
八月十九日　晴。詰朝公園に散策す。松倉善家，岡本源次の信片至る。終日報告を作る。熊本内藤儀十郎翁月の十三日逝去の報に接す。林出来訪。石井則之より暑中見舞品を贈り来る。
八月二十日　晴。早朝散歩。平川清風其姉君と共に来訪。海軍に報告を発し，漢口山岡司令官に致書。午後平川清音氏の帰国を春日丸に送る。河口虎夫，本山義人の信至る。山成来訪。夜山成，佐々布を訪。
八月二十一日　晴。朝散策。午前有吉，林出，井手友を訪ふ。本山義人，河口虎夫に返書す。余洵来訪。
八月二十二日　晴。早朝散歩。三井銀行土屋計左右より菓子二缶を贈り来る。土屋に致書。宗像金吾の信片至る。之に復す。古城に信片を発す。北京八角三郎の信至。午後領事館に岸領事，上海日報に島田を訪ふ。
八月二十三日　晴。朝散策。午後宮永龍見，塩嵜領事，林出前後来訪。成田錬之助，八角中佐，同文書院，宝珠山の信至る。宝珠山，成田に復し，清子に致書す。
八月二十四日　晴。日曜。佐藤少佐，木下夫人来訪。丈夫，神嵜，牧野孝行の信片至る。
八月二十五日　微雨。朝散歩。午前東方通信社経費を領事館より受取る。大島新，深沢暹，並に内人の信至る。大島，深沢に復書す。別に神嵜，牧野，丈夫に復書す。内藤儀十郎翁月の十六日死去に付き嗣子市太郎に奠儀として五両を贈る。佐々布来訪，留て晩食す。
八月二十六日　風雨。内人に復書す。津田静枝少佐四川峨眉山上よりの信片に接す。午後郵便局，上海日報，東方社に至り，三時帰る。三井竹内来訪。岡本源次に復書す。
八月二十七日　陰，風大。午前理髪，佐原を訪ふ。午後西本，櫻木来訪。夜余洵来訪。
八月二十八日　晴，風強。朝佐藤三郎を訪ふ。井手三郎，武居鴻二郎の信至る。武居に復す。余洵来訪。夜佐々布を訪ひ，共に出て武田老を訪ひ，十二時帰。
八月二十九日　晴。早朝散歩。名和大将の信至る。午後林出を訪ふ，不在。上海日報に至り小談，帰る。渡辺天洋，余洵前後来訪。余硯一面，古墨一対を贈る。米原繁蔵に致書す。
八月三十日　晩雷雨。六時有吉の送別会に倶楽部に出席，八時半帰。姚来訪。長江虎臣，小澄正の信至る。
八月三十一日　陰。天長節。林出来訪。佐々布来訪。宮川守善の信到る。之に復す。午後佐々布来訪。八時水泳大会を観，十一時帰。古城貞吉，波多博の信至。
九月一日　朝散歩。晴雨無定。午後櫻木俊一来訪。五時櫻木同車江湾体育路の日本人倶楽部附属園開園式に列し，七時帰。
九月二日　風雨。午前林出，白木を訪ふ。午後政木，西山来訪。井手，長江の信至る。長江は本月より渡来すと云ふ。海軍に書信を発す。
九月三日　晴。午後上海日報を訪ふ。七時高柳敬勇，甘濃益三郎の招宴に倶楽部に出席，十時帰る。
九月四日　陰。朝有吉を訪ひ告別し，九時上海新領事山嵜馨一を熊野丸に迎ふ。六時有吉，山嵜新旧領事の送迎会に倶楽部に出席，九時帰。
九月五日　晴。北京八角中佐に復書す。午後平川来訪。
九月六日　晴。海軍に報告を発す。余殼民来訪。午後四時有吉領事の帰朝を熊野丸に送り，帰途理髪。井手友の病を問ふ。広東八田厚志の信至る。長江虎臣に復書す。
九月七日　半晴。日曜日。午前高柳敬勇，菊池豊吉，村上貞吉，木下温知，佐々布質直を訪ふ。晩佐々布来訪，留て会食す。
九月八日　晴。午前山嵜新領事，林出，島田を訪ふ。中島為吉の信至る。之に復す。神尾茂に信片を発

す。午後平川来訪。澤本良臣，平川清音，並に内人の信至る。内人に復書す。渡辺天洋来訪。熱甚。
九月九日　陰。丈夫の信片至る。之に復す。九州日々新聞に通信を発す。広東八田厚志に復書す。夜山成，佐々布を訪ふ。
九月十日　晴。白木少佐来訪。姚文藻，余殼民来訪。
九月十一日　晴。海軍に報告を発す。蛭子義治来訪。八田厚志に信片を発す。河合半次郎来訪，マニラ転任の為明日帰国すと云ふ。夜林出，上海日報を訪ふ。井手三郎，丈夫に信片を発す。
九月十二日　晴。井上一郎なる者来り山東行の旅資を乞ふ。之に若干を与ふ。内人に信片を発す。蛭子を訪ひ小談。午後井手友喜を訪ひ送別。晩三島生来別を告ぐ。明朝の山城丸にて帰国すと云ふ。
九月十三日　晴。午前櫻木俊一，林出，島田を訪ふ。午後同文書院に至り根津，青木，眞島を訪ひ，五時帰。野満四郎，菊池の信至。義勇隊長山内俊貞来訪。隊員全部に対し一夕の講話を乞ふ。平岡小太郎大坂よりの信至る。
九月十四日　午後雨。日曜日。三時波多博を近江丸に迎へ其寓に至り小談，帰。夜余洵，波多博来訪。丈夫より巻紙一箱を送り来る。丈夫に致書す。
九月十五日　晴。午前渡辺天洋，午後波多博来訪。西本来談。
九月十六日　晴。平岡に復書す。商船会社武田近次郎より新任披露の案内状至。
九月十七日　晴。頭痛。姚文藻来訪。夜倶楽部に至り義勇隊員の為に一場の講演を為し，十時帰。中島中佐の信至る。之に復す。
九月十八日　快晴。午後理髪，篠嵜を訪ひ，去て宮嵜寅蔵を勝田館に訪ふ。昨日来着せる者也。上海日報社に至り小坐，帰る。佐々木金次郎の訃至。七時商船会社武田近次郎の招宴に倶楽部に列し，十時帰。
九月十九日　晴。高柳敬勇，細谷利恵来別を告ぐ。明日の船にて帰国すと云ふ。海軍に報告を発す。山成来訪。夜岸倉松を領事館に訪ひ，十時帰。
九月二十日　晴。八時高柳敬勇，細谷，高木陸の帰国を熊野丸に送る。午後波多，夜佐々布来訪。佐々布を留め会食す。
九月二十一日　晴。日曜日。終日在寓。井手友，三島の信片，並に巴里岩崎栄蔵の信に接す。
九月二十二日　晴。内人の信至。午後七時波多の東道にて倶楽部に至り，島田，平川，太田等と会食す。
九月二十三日　陰。根津院長，岸至来訪。三島，河口由次に致書す。岸田太郎来訪。
九月二十四日　晴。長沙塩島少佐に致書す。宮嵜虎蔵来訪。夜余洵来訪。
九月二十五日　晴。山田岳陽，本山義人，美土路昌一の信至る。報告を作る。林出来訪。夜波多を訪ふ。
九月二十六日　陰天。海軍に報告を発し，豊陽館に白木を訪ひ小談，午後二時半の汽艇にて前日入港の軍艦須磨に至り山岡司令官，土井参謀と暢談，五時帰。夜余洵，波多来訪。午後雨。
九月二十七日　風雨。午前佐藤少佐三郎来訪，本日より北四川路に転居すと云ふ。保木本の信片至。午後山岡司令官，土井参謀来訪。夕刻瀬川総領事を鳳陽丸に訪ふ，不在。上海日報社に小坐，五時帰。山嵜領事の案内状至。夜佐々布来訪。
九月二十八日　雨。漢口津田少佐静枝に致書す。根津同文書院長より案内状至る。副島綱雄来訪。晩櫻木俊一来訪。夜波多を訪ふ。
九月二十九日　雨。理髪。午前山嵜領事，林出を訪ふ。田川接喜来訪。午後木下温知，橘三郎，野木和一郎来訪。橘は本日来着せりと云ふ。
九月三十日　陰。午後七時根津一氏の招宴に西蔵路一品香に赴く。同座は山嵜領事，岸，塩嵜，林出，福岡，青木，眞島等也。十時散。
十月一日　半晴。田川小六来訪。海軍と留守宅に致書す。右田以徳に弔詞を致す。厳君病故の報に接せしを以てなり。梅野秀明来訪。菅村夫人，村奈岩彦の信至る。之に復し，菅村の為に鳥居に致書す。

林出来訪。海軍々令部より十月至十二月手当を送り来る。副官に領収証を発す。七時山崎領事馨一の招宴に倶楽部に列席，九時半帰。佐原より松江名物の塩緑豆を送り来る。

十月二日　晴。午前橘三郎を訪ひ，北四川路に佐藤少佐，副島，木下，菊池を歴訪して帰る。夜余洵，佐々布来訪。高田商会原田瓊生の招待状至る。之に復す。安部政次郎に弔詞を発す。

十月三日　半晴。終日在家。姚文藻来訪。長崎小西伊十の信至る。北京陳宝琛に致書。

十月四日　陰。小西伊十に復書す。午前領事館を訪ひ，去て熊野丸に櫻木俊一の帰国を送り，上海日報社に小談，又去て白木少佐，佐原を歴訪して帰る。根津同文書院長の請帖至る。先約有るを以て柬して之を辞す。夜佐々布を訪ふ，不在。松井信一，山成和四夫に抵り，十一時帰る。

十月五日　晴。日曜日。午前谷口源吾，並に熊本出身同文書院新旧学生全部来訪。午後初て北郊に出猟。無所獲，四時帰。竹内勝太，佐々布来訪。佐々布留飯。

十月六日　晴。山田謙吉，中山優，小幡惟清，内藤市太郎，同辰熊，軍令部副官の信，並に河口由次の電報至る。午後木下温知，稲生，岡吉次郎の為に揮翰す。二時同文書院に根津氏を訪ひ，河口入学の件を商量し，五時帰。小幡，中山に復書す。

十月七日　晴。午前白木，波多を訪ふ。津田少佐の信至る。山成来訪。六時半原田瓊生の招宴に六三園に赴き，九時帰。

十月八日　晴。午前河口由次を迎ふる為郵船埠頭に到る。船入港せず。夜八時入港，河口到る。九時之を同文書院に送る。

十月九日　快晴。鈴木少佐美通の信至る。之に復す。午後河口由次，並に同県学生来訪。七時高田商会原田瓊生，三上孝司の招宴に倶楽部に出席す。原田は独逸に転任し，三上其後を襲て当地に来任せし者也。漢口瀬川総領事浅之進の信至。武田寛治郎来訪，乾酪一個を贈る。是日陰暦中秋節，月色好。

十月十日　晴。報告を作て夜に入る。同文書院生二名来訪。

十月十一日　晴。海軍に報告を発し，八幡丸に根津氏の帰国を送り，上海日報社に島田と小談帰。夜佐々布来訪。鳥居の信至。菅村三之に致書。

十月十二日　晴。日曜日。午後武田寛治郎，山成，村上，木下，菊池豊吉等を訪ふ，多く不在。波多の病を問ふて帰る。

十月十三日　快晴。東京宅に為替取組，内人に致書す。上海日報に小談，理髪後篠嵜を訪ふ。

十月十四日　快晴。午前白木少佐，平野来訪。内人の信，並に田川接喜の信に接す。午後篠嵜と軍艦須磨に山岡司令官，其他知人を訪ひ，三時半帰。小西伊十の信至る。之に復す。竹内直哉の案内状至る。夜佐々布来訪。

十月十五日　快晴。村上貞吉，山田謙吉来訪。報告を作る。井手三郎の信至り山田に托し紙類を送り来る。夜波多の病を問ふ。パラ窒扶斯に確定せりと云ふ。

十月十六日　晴。海軍に報告を発す。井手三郎に復書す。内人に復書す。夜島田，篠嵜を訪ひ，帰途波多の病を見。

十月十七日　快晴。詰朝散歩。午前林出，佐藤少佐来訪。夜佐々布来訪。

十月十八日　快晴。中島雪之介，浦上叔雄の紹介にて来訪。十一時岸倉松の帰国を熊野丸に送る。英国リバプール領事に転任する者なり。帰途豊陽館に山岡司令官を訪ひ，正午帰。六時日清汽船会社竹内直哉の招宴に六三園に赴く。九時散ず。帰途山成和四夫に抵り小談。山岡司令官より埃及煙草五百本を贈らる。

十月十九日　晴。日曜日。山岡司令官に礼状を発し，波多の病を問ひ，山田岳陽に名刺を留て帰る。有吉明，河口愛子に致書す。

十月二十日　快晴。午後波多の病を問ひ，上海日報に小談。内人の信至る。之に復す。夜塩嵜，林出両人を訪ふ，不在，帰る。両人亦外出中に来訪せりと云ふ。

十月二十一日　半晴。温度六十度，秋冷透肌。九時竹内直哉を滙山の筑後丸に送る。午後佐々布来訪，油，石鹼，魔法瓶等を贈る。熊谷直幹来訪。夜武田を訪ふ，不在。佐々布に抵り十時帰。雨。

十月二十二日　晴。午後佐原篤介来訪，国際聯盟の一員として欧洲出張の事に内定せりと云ふ。内人の信至る。大正日々新聞社より第二回払込を請求し来る。夜武田寛治郎来訪。

十月二十三日　快晴。午前山田謙吉来訪。午後波多の病を問ひ，去て上海日報，白木，西本を訪ふ。日本棉花会社今村権九郎の案内状至る。

十月二十四日　快晴。熊谷来訪。午後山嵜領事を訪ふ，不在，林出と小談，去て上海日報社に至り，四時帰。夜塚本恵来訪，九江の黄油二缶を贈る。松倉，中川に信片を発す。

十月二十五日　健晴。十時塚本を八幡丸に送り，去て白木を訪ひ正午帰。夜佐々布を訪ふ。

十月二十六日　晴。日曜。是日同文書院秋季運動会の案内有り。行かず。山成来訪。七時今村権九郎，井口幾太郎の招宴に六三園に赴き，九時帰。鳥居赫雄の信至。

十月二十七日　晴。鳥居打電，別に書信を発す。波多の病を問ひ，島田の処に小談，帰。西本来訪。菅村三之，渡辺天洋の信至る。領事館より本月分経費を受取。

十月二十八日　晴。海軍に書信を発す。夜佐々布来訪。松倉，右田，中島雪之助の信片に接す。

十月二十九日　陰。理髪。姚文藻来訪。晩渡辺天洋の招宴に大馬路四四八号宝利斯得珈琲(パンリスト)公司に赴く。同座山崎領事と武官，以下言論界の人士三十人許。九時帰。

十月三十日　雨。午後西本を訪ひ銀八十員を借る。夜横山を訪ひ小談。

十月三十一日　晴。天長節。前十時領事館に至り聖影を拝す。十一時半より領事館のレセプションに出席，正午倶楽部所属地の祝賀会に臨み，二時帰。藤原忍の信片至る。

十一月一日　半晴。前十時今村権九郎を送り，波多の病を問ひ，晌午松岡に至り歯の治療を為し，午時帰。内人の信至る。之に復す。夜篠嵜来談。山成来訪。

十一月二日　陰。午前佐々布家族全部来訪，土宜二点を贈る。中津純人来訪，昨日熊本より帰来，明日漢口に帰任すと云ふ。

十一月三日　雨。西山来訪。午前松岡に歯の治療を為し，江西路新利洋行に三田を訪ひ小談，帰。午後報告を作る。中津生，波多を敲き帰る。夜大坂鳥居の電報至る。鳥居に致書す。

十一月四日　陰。午前歯の治療を終る。大正日々新聞株式第二回払込二百五十円を佐野直喜宛に郵送す。三島生に致書す。平川清風来訪。海軍に報告を発す。

十一月五日　雨。午後山田岳陽，福田千代作来訪。伊集院大佐俊の信片到る。西本来訪。余洵来訪。

十一月六日　快晴。伊集院大佐に復す。西本，波多を訪ふ。鳥居に信片を発す。六時倶楽部の猟友会に出席す。会する者三十余人。一同会食，十時半散ず。大脇菊次郎の信至る。

十一月七日　晴。平岡小太郎来訪，一昨日帰来せりと云ふ。木下温知より八代鮎のうるかを贈り来る。

十一月八日　雨。午後京都大学理学博士近重眞澄，小川琢治来訪，欧洲へ出張の途次なり。六時坂田長平宅の晩餐に赴く。篠嵜，林出，西本，平川，島田，村上同座たり。十時半散。

十一月九日　快晴。朝近重，小川両博士を訪ふ。鳥居赫雄，前島次郎の信至る。午後平岡，坂田長，木下，佐藤，佐々布，平川を歴訪，去て税関埠頭に近重等を送る，遇はずして帰る。白木，余洵来訪。

十一月十日　晴。山成及騎兵少佐壹岐萬里来訪。午後理髪，白木，島田，波多を訪ふ。原田瓊生の信至。夜壹岐少佐を万歳館に訪ふ。広西陸栄廷の処に赴く者なり。鄭孝胥に紹介す。鳥居の電報至る。広東八田厚志に致書す。

十一月十一日　晴。報告を作る。午前壹岐少佐来訪。井手，丈夫，豊原の信至る。夜佐原来訪。七時余洵の主催せる本因坊歓迎宴に杏花楼に列す。日支両国人二十人来会，十時半散。

十一月十二日　晴。前七時徳川家達公を北車站に迎ふ。午前西本来訪。午後河口由次，石川順両生来訪，留て晩食す。夜余洵，田川来訪。

十一月十三日　快晴。海軍に報告を発し，丈夫に復書す。午後上海日報白木，波多を訪ふ。晩余洵来訪。

十一月十四日　晴。風邪の気味有り。正午白岩龍平を南陽丸に迎ふ。午後神崎正助来訪，本日来着せりと云ふ。七時徳川家達公の歓迎会に倶楽部に出席，九時半散ず。

十一月十五日　快晴。午後三田を訪ひ，去て三井に至り神嵜を訪ひ，三時帰る。夜十一時の汽車にて平岡，三田，外一人と蘇州滸墅関に猟せんとす。装を治す。鳥居の電報至る。東京大島新に致書す。風邪の気味去らず，今夜出猟を中止し平岡に之を通知す。

十一月十六日　晴。午後佐々布，山成，松岡玄雄，波多を訪ふ。夜微熱。

十一月十七日　微雨。佐野直喜の信至。米里紋吉来訪。正午白岩龍平来訪，留て中食す。姚文藻，森，山成前後来訪。西山保壮の訃至。内人の信に接す。内人に復書し，西山未亡人に弔詞を発す。古島一雄，余洵来訪。古島は北支那より来りし者也。

十一月十八日　晴。午前平岡来訪。正午平岡の処に至り猟獲物を会食す。白岩，成田，町田等来会，午後三時散ず。成田来訪。姚文藻の信，並に白岩の請帖至る。石嵜良二来訪。

十一月十九日　晴。鳥居赫雄の信二通，鈴木美通，有留重利の信，並に鳥居の電報到る。余洵来訪。正午白岩，成田，平岡，町田，佐原と篠嵜の招宴に赴く。支那料理の饗有り，三時半散。波多の病を問ふ。夜古島一雄と談ず。

十一月二十日　晴。午前波多を訪ひ，正午白岩の招宴に六三亭花園に赴く。徳川家達公を主賓とし，令息家正氏，山崎領事，児玉，塩嵜，林出，李梅庵，呉昌碩，葉徳輝，王一亭，李平書，朱輔臣等同座たり。午後三時半散ず。帰途波多，島田を訪ふ。夜林出来訪。徳川家正氏に致書す。佐藤少佐来訪。

十一月二十一日　快晴。正午永安公司に赴き亜洲日報の饗宴に列す。山嵜領事，白岩，橘，成田，塩嵜，佐原，平岡，島田，西本，林出，山田，篠嵜，平川，西山等同坐たり。二時半散。成田来談。

十一月二十二日　快晴。朝古島一雄来訪。十時八幡丸に古島，高木陸の帰国を送り，帰途白木，橘，波多を訪ふ。午後木下温知来訪。河口介男，三島岩三の信至。山成来訪。夜十一時の汽車にて平岡，松尾と蘇州に向ふ。午前一時着，直に一小舟に乗じ滸墅関に赴く。

十一月二十三日　快晴。日曜日。前六時滸墅着，朝食後上陸。午前雉一羽を獲，舟に帰る。十一時帰途に着く。平岡等は途中にて上陸す。三時舟蘇州停車場前に達す。夜に入て風大にして雨至る。平岡等帰来船中にて晩食し，七時半の汽車にて帰る。九時半上海着。鳥居，河口愛子の信に接す。

十一月二十四日　晴。河口女史に復書す。午後理髪，六時白岩の招宴に六三園に赴く。会者四十余名，八時半散ず。帰途佐々布を訪ふ。

十一月二十五日　晴。午前島田，波多を訪ふ。午後波多，河口由次来訪。鳥居に復書す。姚の信至る。村上貞吉，余洵来訪。

十一月二十六日　晴。午後吉田増次郎，大島新を熊野丸に迎ふ。吉田少将は新任遣外艦隊司令官として来任せる者なり。鳥居の電報至る。是日上海日報社より銀百五十元を借る。午後二時二十分山岡少将を車站に迎ふ。豊陽館に至り小談，帰。七時吉田，山岡新旧司令官の送迎会に出席，八時半散。鳥居の信至る。

十一月二十七日　陰。海軍に報告を発す。午後豊陽館に吉田，山岡両少将を訪ひ，帰途波多を訪ふ。六時神津助太郎の招宴に六三園に赴き，九時豊陽館に至り吉田少将の漢口に赴くを送りて税関埠頭に至り，帰途成田を訪ふて十一時帰。岡幸七郎，熊谷の信至。

十一月二十八日　雨。午前西山，朱輔基，糟谷，山田岳陽来訪。山崎領事の案内状至る。先約有るを以て之を辞す。五時山岡司令官を豊陽館に訪ひ，六時成田，白岩，橘，森と同車土井伊八の晩餐に赴く。平岡来会。十時散ず。成田今夜に向て出発す。

十一月二十九日　陰。前八時波多の帰国を熊野丸に送る。午前山岡司令官来訪。午後山部，佐々布来訪。姚文藻，薛銘詔を伴ひ来訪，薛は甘粛泰安人にて回教新派の主教馬聖人元璋の代表者也。六時村

上貞吉の招宴に新月に列す。山岡司令官，篠嵜，白木，西本，平川等同座たり。九時散ず。會田常夫，村山正隆，西山保壮未亡人の信片に接す。

十一月三十日　雨。日曜日。前十一時山岡少将の帰国を税関埠頭に送る。午後平川清風，大正日々新聞社特派員上田吉郎並に土屋某を伴ひ来訪。石井則之来訪。夜佐原宅に至り会食，十時帰。本月分経費を領事館より受取。中島中佐晋の信片至る。軍艦常磐にて遠洋航海の途に就きしと云ふ。

十二月一日　晴。林出，島田を訪ふ。午前世界無銭旅行者鳥居三鶴来訪。同県同郷の人なり。福士勝敏来訪。午後河口由次来訪。晡時鳥居を訪ふ。夜上田吉郎来訪。

十二月二日　晴。波多夫人，呉永寿来訪。波多重雄の信至る。報告を作り海軍に発送す。九時大倉喜八郎，河野久太郎を北站に迎ふ。

十二月三日　雨天。内人に致書す。林出，佐原前後来訪。

十二月四日　陰。呉永寿を訪ふ。河口由次来訪。香月夫婦より写真を送り来る。香月に信片を発す。午後島田，上田，波多宅を訪ふ。余殼民来訪。

十二月五日　半晴。林出，島田，西本を訪ふ。海軍に報告を発す。夜上海日報社を訪ふ。佐々布来訪。

十二月六日　快晴。前九時白岩龍平の帰国を八幡丸に送る。八田厚志，東京宅の信，並に軍令部副官より一，二，三ヶ月分手当千百十円，並に本年度特別費三百円を送り来る。副官に領収証を発送す。午後大島新来訪，村奈岩彦の信片至る。夜副島綱雄の招宴に六三園に赴く。河野久太郎，児玉謙二郎，土井同座たり。九時半散ず。

十二月七日　快晴。日曜日。是日猟友会々猟の期日たり。前七時半の汽車にて平岡，佐々布と龍華に猟し雉子一羽を獲，二時の汽車にて帰る。猟装未だ解かざるに塩嵜，林出，彌冨，並に高森良人来訪。高森は文学士にて細川侯の派遣生なり。石光眞臣の紹介状を持参す。

十二月八日　晴。午後七時大倉喜八郎歓迎に倶楽部に出席，九時散。

十二月九日　晴。朝宮村暦造，森脇栄枝両大佐を豊陽館に訪ふ。十一時大倉，河野久，宮村，森脇の帰国，山城丸に送る。中食後高森良人を伴ひ同文書院に至り大島新を訪ひ，五時帰。西田耕一，姚文藻来訪せりと云ふ。六時猟友会の晩餐会に倶楽部に出席。会者七人，九時散。

十二月十日　晴。午後郵便局に至り為替を受取り東京留守宅に八百円を滙送す。西田耕一を豊陽館に訪ひ，去て上海日報社に至り島田と共に伊吹山徳司を唁す。今朝死去せるを以てなり。帰途姚文藻を訪ふ。晩余洵来訪。熊本菅村夫人の信至。

十二月十一日　雨。終日在寓，年賀状を認む。

十二月十二日　雨。鳥井三鶴来訪，之に拾金を餞す。大谷藤次郎来訪。夜上田吉郎来訪。

十二月十三日　快晴。菅村夫人に復書，各地への年賀状を発す。午前白木，上海日報を訪ひ，正午徳川家達公の帰国を熊野丸に送る。佐藤少佐，山成和四夫来訪。夜波多夫人，平川清風を訪ふ。波多重雄氏に復書し，別に波多博に致書す。岸田太郎の信至。

十二月十四日　晴。井手友喜に致書す。午後島田と電車静安寺共同墓地に至り伊吹山徳司の葬儀に列す。四時半佐藤少佐と同車帰寓。心気不舒。朱輔基来訪。

十二月十五日　晴。朝松岡洋右を訪ふ。昨夜来着，福州事件実地調査の為福州に赴く者也。午後領事館に豊田警部を訪ひ楽善堂営業停止救解の事を商量す。大谷藤次郎を訪ふ。岸田太郎に復書す。夜岸田完五来訪。

十二月十六日　晴。午後佐々布，山田謙，上田吉郎，西山来訪。亜洲報館より謝儀一封贈り来る。松倉の信片至る。年賀郵便を発し，松岡の処に至り歯の治療を為す。六時春申社の忘年会に倶楽部に出席。会者児玉謙二郎，佐藤少佐，篠嵜，塩嵜，林出，佐原等二十余人，九時半散。

十二月十七日　陰。午後理髪，松岡に抵り歯療を為す。

十二月十八日　晴。午前松岡に至り，去て領事館に山内副領事を訪ふ。昨日着任せし者也。上海日報に

島田を訪ひ小談。午後佐々布来訪。三時櫻木，副島，土井を訪ひ，弓術倶楽部の寄附を要求し，三井に佐々布を訪ふて帰る。山田謙吉，西山来訪。

十二月十九日　晴。午前歯を療す。夜佐々布，余洵来訪。佐藤少佐に致書す。海軍井出光輝に致書す。

十二月二十日　雨天。午前歯の治療を為す。二階堂大尉来訪。中食伊吹山の追弔会に倶楽部に列す。報告を作る。晩佐藤少佐の招宴に月廼家本店に赴く。柴田隅田艦長，二階堂大尉同座たり。十時半帰。

十二月二十一日　半晴。海軍に報告を発す。余洵，岸田来訪。内人の信二通，並に波多博，河口由次の信至る。東京宅に致書。藤瀬政次郎に弔詞を発す。其母堂逝去せるを以てなり。余洵来訪。午後篠嵜，柴田少佐来訪。内人の信又至る。之に復す。

十二月二十二日　陰。名和大将に其子息夭折を弔す。林出を訪ひ，去て歯の治療を為し，正午帰。二階堂大尉来訪。夜佐藤少佐，佐々布を訪ふ。

十二月二十三日　雨。朝二階堂来訪。出て井手三郎を訪ふ。本日帰来せる者也。白木少佐に抵り小談，帰る。白岩龍平の信至る。之に復す。是日領事館より通信社の経費を受取る。塩嵜官補，林出来訪。夜井手三郎来訪。

十二月二十四日　陰。午前平川，林出を訪ふ。晌午佐々布来訪。是日より野平，守田，石嵜，佐々布，米田と浙江に猟せんとす。装を治す。狄平より蜜柑一箕を贈来。五時税関埠頭に至り三井のハウスボートに乗じ野平，守田，石嵜，佐々布，米田と海塩に出猟せんとす。七時一行尽く会し抜錨す。

十二月二十五日　晴。船平湖，海塩の中間に下棹す。七時結束，猟区に向ふ。獲る所無し。夜船を回顧橋に移す。

十二月二十六日　晴。七時上陸，午前中鶉一羽を獲たるのみ。午後船を新揚子涇橋に移す。平湖を距る五六支里のみ。六時半上陸，雉子に四射して終に一羽を獲，薄暮船に帰り晩食後抜錨，帰途に就く。

十二月二十七日　陰。前四時船上海に達す。七時半一行と別れ寓所に帰る。土屋参謀，井手友喜の信，並に台湾銀行柳田直吉より汕頭蜜柑一大箕，副島綱雄より煙草一箱，石井則之より鯛の花一箱の贈を受く。柳田，副島に礼状を発し，土井に復書す。平岡小太郎，唐其盛，余洵前後来訪。夜山口啓三来訪，鮭子の粕漬二樽を贈る。夜雨。

十二月二十八日　晴，寒甚。午前理髪。午後島田，篠嵜来訪。六時上海日報の忘年会に杏花楼に出席，九時帰。寒威凜烈。

十二月二十九日　晴，寒。午前井手，山成，福士来訪。篠嵜，山口に鮭子，鯛の花を贈る。金参百円を銀に兌換し僅に百二十九元を得，旅宿の使用人二十余人に歳暮として全員に分給す。小早川秀雄に其母堂の弔詞を発す。唐其盛来訪。午後五時亜洲日報館に至り関係者一同と共に撮影す。本日を以て廃刊するを以て也。終て日報館の招宴に杏花楼に赴き，九時帰る。余洵，平川来訪。

十二月三十日　晴。古島一雄，波多博，宮村大佐暦造の信至る。午後井上一葉来訪。夜西本の病を問ひ，帰途佐々布に抵り，十時半帰。

十二月三十一日　陰。午前川村景敏，山田謙吉来訪。午後王益三来訪。夜鉅鹿赫太郎来訪。浦六郎，小西伊十，三島の信至る。是夜大正八年除夕たり。報告を作り，深更就寝。島田太堂来訪。